



POKÉMON
THE
G R E A T
D E T E C T I V E
PIKACHU



『偉大なる名探偵ピカチュウ』
名探偵ピカチュウ2
ジョーダン・ヴォート＝ロバーツ 作



ライムシティ **かつてポケモンと人間の融和の象徴だった街** **パートナーシップ**という、もろくはかない理想を礎として築かれた社会

二年前、ハリー・グッドマンと名探偵ピカチュウはそれを守るために全力を尽くした。
二人の努力は実を結んだように見えた。ハッピーエンドで終わったはずだった。

だが、人間の心の暗流を甘く見てはいけない。特にこんなご時世には。

『**ナイブズ・アウト**』風の**ポケモン・ユニバース**へようこそ——ここで起きるのは前作で確立されたライムシティの特殊性を活かした古典的な殺人事件。そこにポケモンのカノン（聖典）である作品群からとった古典的な要素（ファンがスクリーンで一番観たいものはこれ）がちりばめられます。手がかりはポケモンの能力にあり、偽の手がかりも彼らのユニークな特性から生まれます。古びた屋敷の代わりにポケモンジムが登場し、紫煙漂うバーで歌うのはシャンソン歌手ではなく、人々を眠らせるプリンです。

ライアン・レイノルズはシニカルな名探偵役で再登場しますが、冒頭で彼がピカチュウに戻った経緯を描くような時間の無駄遣いはしません。ノワールの偉大なストーリーテリングの手法を見習い、この謎を彼が解かねばならないもっと大きな謎の鍵にします。ライアンがどの程度スクリーンに登場するかは、需要次第で調整可能です。

さらに前作からの変更点として、ピカチュウの脇を固めるのは濃いキャラクターたち——ファム・ファタール（運命の女）、ダーティー・コップ（汚職警官）、ガール・フライデー（頼もしい女）、そして『ザ・ロイヤル・テネンバウムズ』のテネンバウム一家にも負けないポケモン・トレーナーの一族など——今では逆にお目に掛かれないような古典的な“お約束”キャラの面々です。お楽しみの要素として各キャラクターにぴったりのパートナーポケモンがいます。

これは名探偵ピカチュウでしか作れないポケモン映画です。

大胆で、無駄がなく、予想外で、タイムリーな映画です。

アクション映画ですが、ひねりの利いたプロットは大人も唸らせるでしょう。

そして家族全員を笑い転げさせるはずです。

はじめに…

これは長く密度の濃い、トリートメント以上、正式なアウトライン以下といった性格の文書です。筆者が一貫して心がけたのは、今後の作品作りに備えて、ユニークでフレッシュな遊びの要素を詰め込めるだけ詰め込むことでした。

この文書では、キャラクターのほとんどを単純なアーキタイプにとどめ、プロットや世界観、謎、ひねりの構築に重きを置いています。これらをポケモン・ユニバースで輝かせることに焦点を絞りました。

この文書が皆様にとって“木を見て森を見る”一助になればと願っています。中には動機や理屈、ロジック、特殊性の面で改善の余地がある部分もあるでしょう。ですが、どんな模様替えや改装を施したくなくなったとしても、この家の基礎と構造には抜群の強度があると筆者は考えています。この設計図が提供する構造は盤石で、楽しさ、スリル、コメディ、ミステリーなど、好みのアレンジが可能です。

細かな出来事やひねりの順番は、簡単に入れ替えできます。つまり、大本の枠組みを変えずに、謎の解き方や、各シーンのトーンを変えることができます。

アイデアは多すぎるほど盛り込んでありますので、一種の“メニュー表”として考えて頂き、これはと思えるものだけを選んでいければと思います。文末にいくつか代案を載せてありますが、皆様の琴線に響いた要素次第では、これらの代案が作品作りを牽引するヒントになるかもしれません。

原注：本文書には銃器類の画像が多く使われています。これを額面通りに受け取られませんかように。ノワールのイメージを表現する画像で、銃が使われていないものはなかなか見つかりません。銃器類は、広い意味での争いや緊張状態の象徴とお考えください。映画には一丁の銃も登場しません。

より良いシークエル（続編）を作る



『名探偵ピカチュウ』第一作は多くの正解を出しました。私達がすべきは第一作を土台にしながら、ポケモン・ユニバースならではの新機軸を見つけることです。第一作はポケモンの本物らしさや、彼らを取りまく世界との関係性を見事に構築しました。今作が目標にすべきは、第一作の正解すべてを踏襲しつつ、フランチャイズを真に理想的な領域に押し上げることでしょう。

その方法の一つがジャンルとトーンの変更で、これによってポケモンのあらゆる可能性が引き出しやすくなります。第一作のカテゴリーはアクション／アドベンチャーでした。第二作はディテクティブ・ノワールのレンズを通して構成したミステリーにして、意表を突く必要があります。

フランチャイズを前進させる



本作のビジュアルは、この新しい道と無理なく融合するものでなくてはなりません。そうすることで、建前としてはシークエル（続編）でありながら、実質的には名探偵ピカチュウというキャラクターをより広い視聴者層向けにリフレッシュすることが目的のソフトリブート（ゆるやかな仕切り直し）でもある作品が生まれるのです。本作は前に出された料理を前提としたパレットクレンザー（口直し）でありながら、新たなポケモン・ファンを獲得すると同時に昔からのファンにも満足してもらえるような形でルールをリセットします。

ポケモン・ワールドにふさわしい 社会性のあるユニークなテーマ



『名探偵ピカチュウ』

ゲーム版でもアニメ版でも、ポケモンは常に友情、絆、夢というテーマを掘り下げてきました。実写映画も例外ではありません。

第一作の『名探偵ピカチュウ』で描かれたのは、親子の絆の再生、そして本当の自分への進化でした。ポケモンのテーマという源泉には、まだまだ多くの可能性が眠っています。



『偉大なる名探偵ピカチュウ』

『偉大なる名探偵ピカチュウ』は、ポケモン・ブランドに忠実なストーリーを作ると同時に、私たちが暮らす今日の社会に関連したテーマを描くチャンスでもあります。

ポケモンの素晴らしい点の一つは、偉大なイコライザー（平等をもたらすもの）であることです。10歳の子供でも、誰かのおばあちゃんでも、チャンピオンになれるのです。

でも、誰かが不当なやり方でポケモンを利用し、金持ちの有力者だけがチャンピオンになれるようにしたら？

今作の謎の核心は、“不正”です。



『GAMEBOY』
(この映画が作られることを祈って)

『GAMEBOY』は可能性に満ちたポケモンのテーマを掘り下げ、友達同士、またはポケモン同士の絆の大切さを描くストーリーを作ることを目指しています。

一見単純なストーリーのようですが、絆が壊れる瞬間やトラウマの乗り越え方といった意外なシチュエーションを見せることで、独自色も打ち出しています。

一つの絆が終わる時、新たな絆が生まれる。
君はまだそのことを知らないのかもしれない。

本格派ポケノワール

第一作には印象的な謎が一つあり、それがキャラクターや世界観を構築する上で効果的に働いていました。『名探偵ピカチュウ』のベースである探偵ものやノワールといったジャンルは名作映画の宝庫です。前作の焼き直しであるという印象を拭い去るため、第二作は古典的名作のスタイルをもっとインパクトのある形で引き出す方法を見つけることが不可欠です。

第二作は1940年代のスリラーや現代のネオ・ノワールのスタイルを参考にします。

物陰から登場する怪しげな人物、洒落た会話や語り——そういったノワールの名作のDNAを受け継ぎつつも、一方ではポケモン・ワールドならではの楽しくユニークなやり方でお約束を大胆にひっくり返します。

第二作は昔ながらの“ミステリー”として開幕しますが、ミッドポイントで構造が進化して『大いなる眠り』『チャイナタウン』のように大がかりな不正の存在が明らかになり、後半ではピカチュウがそれを暴くことになります。

並外れた、独立独歩のキャラクターとしての “名探偵ピカチュウ”の重要性

ハリー・グッドマンをピカチュウに戻し、名探偵ピカチュウというペルソナを作り出す状況については、熟慮を重ねました。確かに今作はシークエルですが、ソフトリブートでもあるため、前作を成立させた要素を土台に物語を組み立てねばなりません。前作を成立させた根本的な要因は、作中の99.9%の時間、ライアン・レイノルズは名探偵ピカチュウというキャラクターとして喋っていたが、視聴者は彼がハリー・グッドマンであることを知らずにいたことです。だからこそピカチュウを通じて聞こえるライアンの声があれば面白く、可愛らしかったのです。映画の終盤でハリーの魂と意識がピカチュウに体に移されていたこと、だからポケモンが喋れたのだということが明かされます。そしてピカチュウとハリーはそれぞれの体に戻りますが、それはつまり名探偵ピカチュウというキャラクターがもういなくなったことを意味します。

これが問題なのです。いろいろな理由で…

仮に続編がハリーがピカチュウに戻る状況のお膳立てから始まったら、視聴者が“名探偵ピカチュウ”として認識しているキャラクターの魅力は即座に薄れてしまうだろうと筆者は確信しています。なぜなら映画の開始直後に、これはライアン・レイノルズの入れ替わりコメディだ、という前提ができてしまうからです。これでは面白さが台無しになるばかりか、ポケモンIPのエッセンスをうまく抽出するという目的も果たせません。端的に言えば、もし第一作が冒頭20分を入れ替わりの状況設定に割いていたら、あれほどのインパクトは生み出せなかったはずです。ピカチュウの口から出る一言一句が、名探偵ピカチュウの言葉ではなく、魂をピカチュウの体に移されたハリー・グッドマン（ライアン・レイノルズ）の言葉に聞こえたでしょうから。

入れ替わりというジャンルを格上げし フランチャイズに貢献する

名探偵ピカチュウというブランドは、入れ替わりというジャンルに入ります。入れ替わりというジャンルには限界がありますが、私達はこの限界を逆に活かす方法を見つけました。入れ替わりもののフランチャイズが新鮮さを失いがちなのは、コアとなる仕掛けに合理的な根拠を用意し続けることが不可能に近いからです。さらに言うなら、今作の続編（あればの話ですが）で仕掛けを使い回すために新たな根拠探しをしたいとは、皆様も思われなんでしょう。

『ターミネーター2』は『ターミネーター』で効果的だった導入部を少し変えて使いました。『ホーム・アローン』『ホーム・アローン2』もこのパターンです。どちらの続編も、第一作を成功させた見事な導入部を大きく変えようとはしませんでした。

第二作は、第一作の成功点を引き継ぎつつ、フランチャイズの第三作以降を見据えて設計する必要があります。そのためにはハリー・グッドマンが一種の記憶喪失状態で既に自分のポケモンの中にいるところ、つまり名探偵ピカチュウがいるところから映画を始めるのが肝心だ、と筆者は考えています。こうすることでコメディ要素、トーン、ストーリーテリングに大きく寄与するはずです。

これを実現し、なおかつ焼き直し感を与えないための方法の一つが、ノワールの要素を強化し、効果的かつ思いがけない形で謎に組み込むことです…

名探偵ピカチュウの感情の旅

観客を物語に没頭させるのに欠かせないのが、スリルとサスペンスに満ちた謎に加え、全編を通じて名探偵ピカチュウの感情のアーク（内面的変化の軌跡）に寄り添わせることです。ミステリーの探偵役を観客の冷静なアバターに設定し、非常にクールで何があっても動揺しない態度を持たせるのは簡単です。そういう映画はとてもクールになり得る一方で、キャラクターの深い部分に影響を及ぼす旅があるストーリーほどの感情移入は引き起こしません。

第一作には感情のコアがありましたが、それは主としてティム・グッドマンの旅で、名探偵ピカチュウが担っていたのはメンター兼コミックリリーフの相棒としての役割でした。今作では、名探偵ピカチュウというキャラクターに焦点を当て、目の前の謎以上に彼を突き動かすものは何なのかがはっきり伝わるようにしたいと思います。大事なのはピカチュウがポケモン・ワールドにおいて彼なりの人生観を持っていることが伝わることで、それが本作に登場する他のキャラクターたちとの相互作用を通じて見えてくることです。ノワール映画の探偵には、周囲で起こる犯罪に無感動で金のために動くタイプもいますし、世の中を良くする一助になりたいという信念で動くタイプもいますが、どちらにせよ、自分の暮らす薄汚い世界に対しては一家言持っています。

名探偵ピカチュウも例外ではなく、また根本的に正義が実行されるまでノンストップで突き進むタイプです。これが彼というキャラクターの芯です。物語の開始時点で彼は一種の記憶喪失に陥っていますが、信念のコアは輝きを失いません。なぜならそれは彼のDNAに刻まれ、記憶が消えた状態でも内なる指針として彼を駆り立て、前に進ませるものだからです。

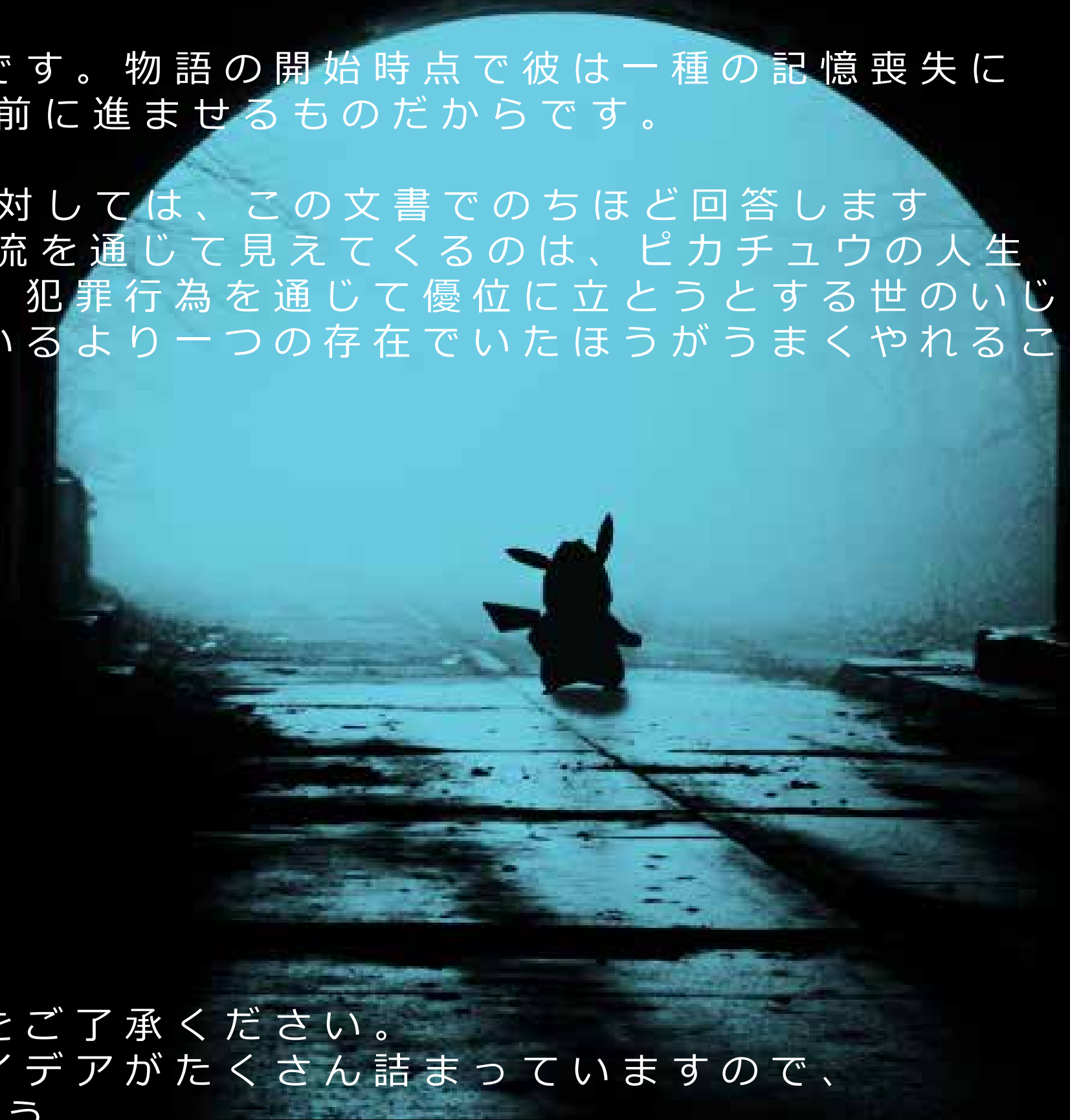
今作の結末までに湧き上がる大きな疑問、それは、なぜハリー・グッドマンの意識はピカチュウの体に戻ったのか、というものです。“HOW”に対しては、この文書でのちほど回答しますが、“WHY”に関しては、彼というキャラクターの旅の核心になるはずです。他のキャラクター（特にパートナーとファム・ファタール）との交流を通じて見えてくるのは、ピカチュウの人生の目標が、この世界で自分と共に生きる者たちの人生をより良くすることだということです。彼の知るかぎり、それを実現する最善の方法が、犯罪行為を通じて優位に立とうとする世のいじめっ子たちの不正や悪意を潰すことなのです。おかしい話ですが、第一作の後、ピカチュウとハリーは何らかの形で、自分たちは別々の存在でいるより一つの存在でいたほうがうまくやれることに気づきます。分離不安が芽生えたわけですから。

このアイデアが究極の形で示されるのは、ハリー・グッドマンが自分の命を投げ打ったのは、親友のピカチュウを救うためだけでなく、自分たちが最高の形で存在し続けるためでもあった、ということが分かる時です。ハリーの体に戻るかどうかという究極の選択を迫られた時、彼は気づきます。自分たちがなり得る最高の探偵とは、ハリーの生命力を宿したピカチュウ——つまり“偉大なる名探偵ピカチュウ”なのだと。

ファム・ファタールはこのことにひどく感動しますが、それは後々分かるように、彼女の人生の目標が、不正を行ういじめっ子によってなされた悪を正すことだからです。旅を通じて彼らの間には絆が生まれ、最終的にはファム・ファタールが名探偵ピカチュウの新たな人間のパートナーになるという形で決着します。

ピカチュウが他のポケモンにちょっかいを出し、どんな風に暮らしているのか聞き出そうとする場面もあります。これは笑えるだけでなく、周囲に馴染めないと感じている人にはグッとくる場面になるはずです。

その他のキャラクター：大部分のキャラクターについてはアーキタイプとして大ざっぱに捉えるにとどめ、詳しい性格や癖、正式な名前については次の段階に譲ることをご了承ください。着手段階では謎の大枠やトーン、世界観の設計図を作ることを優先させます。筆者の頭の中には各キャラクターについてワクワクするようなアイデアがたくさん詰まっていますので、コメディ俳優やドラマ俳優をバラエティー豊かに配した、キャスティング・ディレクターの夢ともいえるオールスターキャストになることでしょう。



喋るピカチュウ／新たなアプローチ

先にも述べましたが、名探偵ピカチュウというキャラクターの面白さの一つは、喋るピカチュウに対する人間たちの反応というコメディから生まれます。これを強調するため、またノワールのトーンを積極的に打ち出すためにも、第一作の経験を通じて成長したティム・グッドマンは自分の道を切り開くために旅立ったことにして、第二作のピカチュウの人間のパートナーにはしません。ティムにはポケモントレーナーという夢を追わせてもいいですし、博士を目指して勉強中だということにでもいいでしょう。第一作の経験を経てティムは自分の人生を生き始めた、というのは感情的カタルシスとして申し分ありませんし、またこうすることで、二度目の入れ替わりの落とし穴を避けることもできます。ティムは既にピカチュウの正体を知っているため、名探偵ピカチュウの個人的な謎が成立しなくなってしまうし、（今作の、またさらなる続編の）新パートナーと軽口を叩く電気ネズミとの交流から生まれる笑いの芽まで摘んでしまうからです。

ここで問題になるのは、第一作でティムだけがピカチュウの言葉を理解できたのは当初は伏せられていた家族の絆があったからだという点です。新たなアプローチのためにティムを排除した場合はピカチュウと人間との会話を可能にする新しい仕掛けとルールが必要になります。これに関しては皆様のお知恵を拝借し話し合いを待ちたいと思いますが、いくつか素案を用意しました。

絆で結ばれた新たな人間プロキシ（中継機）——第一作では家族の絆で結ばれたティム・グッドマンだけがピカチュウの言葉を理解できましたが、今作でも新しいキャラクターの一人に同様の役割を持たせ、ピカチュウが一人の人間としか話せない設定を継続することもできます。第一作と同じく家族の絆を理由にして、後々このキャラクターがハリーの家族であることが判明してもいいですし、別の理由を作ってもいいでしょう。詳しくは数ページ後に述べます。

ポケモンと喋れる（またはそう自称する）人間の超能力者——『ゴースト/ニューヨークの幻』のウーピー・ゴールドバーグのように、ポケモンの言葉を理解できる超能力者を自称するキャラクターを出す、という手もあります。この人物がポケモン全員の言葉を理解できるパターンのほか、特殊な経験をしたピカチュウの言葉だけを理解できるパターンもありますし、さらには当人が自称しているだけで実際はインチキであるというパターンもコメディとして強力で、ピカチュウはこいつはニセ超能力者だとボヤき続けるのだが誰も彼の言っていることを理解できない、という笑いが生み出せるでしょう。どのパターンでも、彼女が本物なのか、偽物なのかという点で、多くの笑いが生まれます。この人物にはエスパータタイプのパートナーポケモンがいることにしてもいいでしょう。

ポケモンの能力を使う——第一作では、ハリーの意識をピカチュウの体に移したのはミュウツーだったことが判明しました。続編では、ハリーの意識をピカチュウの体に戻したのはポケモンの新能力のワクワクするような組み合わせだったことにして、ポケモン・ユニバースの素晴らしい可能性を示すこともできるでしょう。どんなポケモン能力でこれを実現したのかという理屈については、皆様のお知恵を拝借したいと思います。当方にも案はありますが、TPCの慧眼に勝るものではないでしょう。またこの仕掛けを一捻りした、第一作との差別化を図りやすい解釈もあります。ポケモン能力を使ったという発想を敷衍し、ピカチュウに人間全員と話せる能力を会得させるのです。これは第一作の壁を超える名案になるかもしれません。また恩恵も大きいはずです。仮にフランチャイズの第三作があった場合、語りの問題を省略できる、つまりピカチュウに人間と会話させるための新たな方法を探さなくてすむからです。どの切り口で行くかはひとまず置いておくとして、当方が現状想定しているのは、エスパータタイプのポケモンのグループ（例えばゾロアーク、ムウマージ+もう一体）が能力を使っていたことが明らかになるという案です。人々はピカチュウが人間語を喋っているのだと思い込んでいたのだが、それは幻覚で、本当はこれらのポケモンが通訳兼ナレーターとしてピカチュウのメッセージを伝えていたのです。

ピカチュウが“喋り方”を学ぶ——アニメ版ポケモンでは、ニャースが喋れるのは努力して学習したからだということになっています。名探偵ピカチュウは文字を読むことができ、教養もありますから、喋り方を学習できたとしてもおかしくはないはずです。生物学上の問題として、ピカチュウの声帯を使って人間の言葉を発する方法を習得しなければいけませんが、これはポケモン能力を使わないでピカチュウが喋れるようになるパターンです。どの案にも長所と短所がありますから、一番いいのは上記のいくつかを組み合わせることかもしれません。筆者個人としては、ユニークな方法でポケモン同士を協力させて世界構築の可能性を広げられるという点で、ポケモン能力の組み合わせという案を押したいと思いますが、これについては議論を待ちたいと思います。



フレッシュなスタート

第一作は名探偵ピカチュウをティム・グッドマンの視点から紹介しました。3DSの原作ゲームは逆で、プレイヤーは名探偵ピカチュウの視点で世界に入ります。筆者は本作にゲーム版と同じ視点を採用したいと思っています。

幕開けは“**なぜ俺はこんな状況に？**”式の、ノワール色の濃い語りから始めたいと考えています。ピカチュウには“信頼できない語り手”を疑わせる点があるかもしれませんが、あまりに現実離れした内容だからですが、最後にはその状況に至った理由が説明されます。彼の語りがどれだけ現実離れしているかについては、ファミリー向けの『シャッター アイランド』をご想像ください。

本作を入れ替わりコメディではなく、ユニークなポケモン・ノワール・探偵ミステリーとして成立させるために、できることは全てする必要があるでしょう。

A promotional image for Detective Pikachu 2. On the left, a close-up of Detective Pikachu's face is shown in a dark, moody setting. The text 'ACT 1' is prominently displayed in the center in a large, yellow-outlined font. Below it, the Chinese characters '第一幕' are written in a bold, yellow font. To the right, there is a large, stylized red graphic that resembles a blood splatter or a stylized character. The overall background is dark and textured.

ACT 1

第一幕

コールドオープン 息詰まる 追跡

物陰、暗闇、トレンチコート。ザ・ポケモン・カンパニーとレジェンドリーのロゴがフェードアウトした途端、観客は暗くいわくありげな世界に放り込まれる。場所は定かではない。ヘミングウェイの『殺し屋』を思わせる1940年代ノワールの特徴が目につくが、時代はもっと新しいようだ。過去と現在が同居し、時間を超越した雰囲気漂う。激しい雨の描写に、映画館がじめついているような錯覚さえ覚える。もやのかかった裏通りを駆け抜ける人影。気づけば観客はライムシティを舞台にした追跡劇の只中にいる。追われる者の正体は不明だが、マスクをかぶった追っ手二人からは、絶対に逃すまいという意思が伝わってくる。

もしもハリウッド映画の黄金期にポケモンが存在していたら、こんな古典的ノワールスリラーになっただろうという世界がスクリーンで展開される。今作では全編を通じて、ジャンルのお約束を守りもするし、ひっくり返しもするが、このシーンはその縮図だ。

追っ手はとある建物に侵入すると、引き出しを逆さにし、家具をひっくり返し、壁を壊し、あらゆる手を尽くして隅々まで搜索する。すべては正体不明の追跡相手を捕らえるため… **だが目当ての相手は見つからない。**



賊は部屋中を引っかかり回す

やがて、むせび泣くようなパトカーのサイレンの音が遠くから響いてくるが、追っ手はまだ標的を見つけられずにいる。二人は苛立つが、これ以上長居する危険は冒せない。

部屋が静かになり、サイレンの音が近づいてくる。ここまで観客が目にしたのは人間だけだ。

ふいに壁の小さな羽目板が横に開き、全身ずぶ濡れの名探偵ピカチュウが床に転がり落ちる。

追われていたのは、**ポケモン**？



仕掛けとしての語り

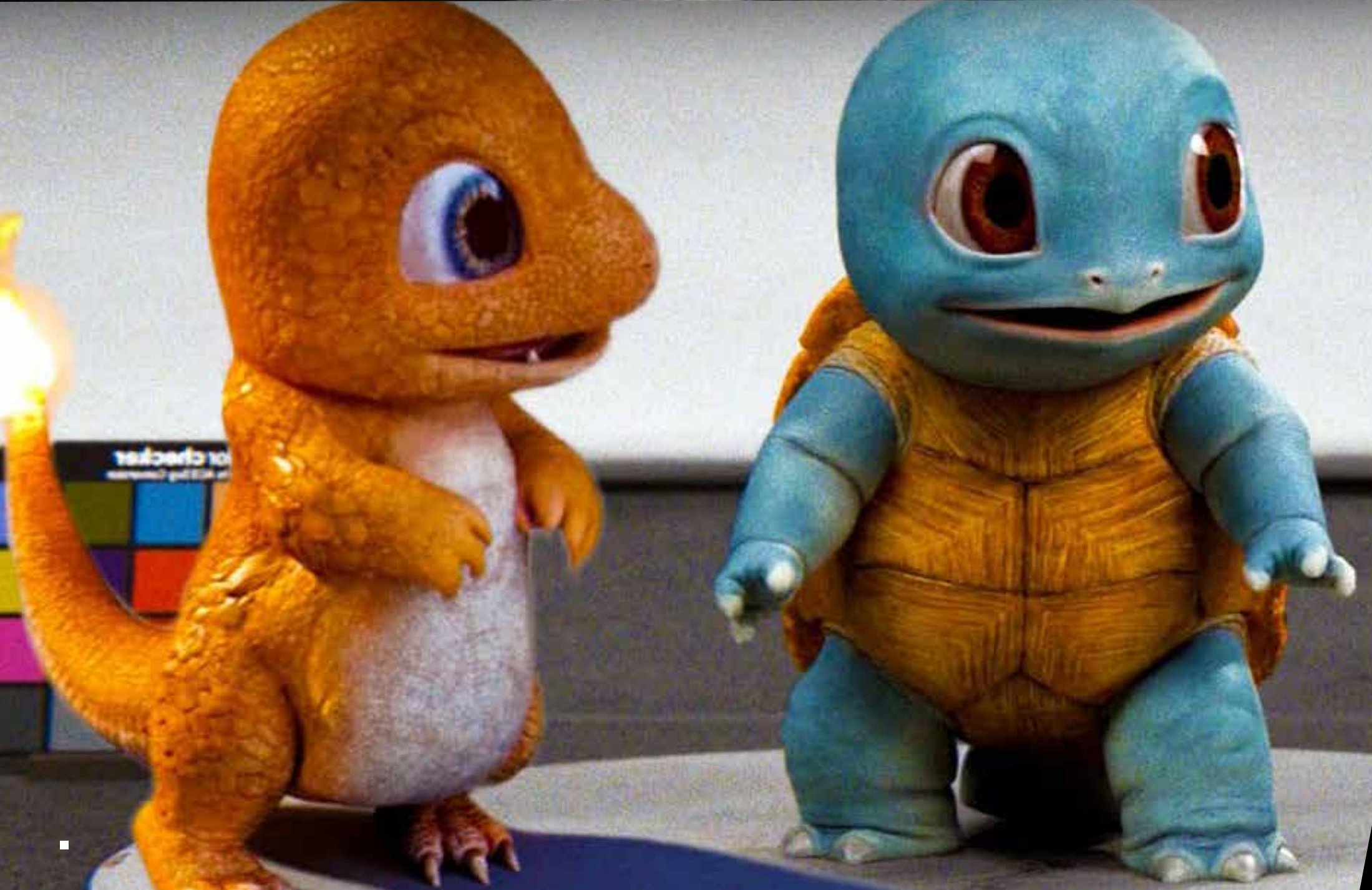
くたびれきった様子の名探偵ピカチュウは、時間を無駄遣いしない。いや、昨日淹れたコーヒーを一口飲むくらいはするかもしれないが、そのあとはてきぱきと行動し、自分をさらおうと目論んでいた者たちが荒らした部屋を探し回る。

彼は録音機器／ビデオカメラを見つけ、この瞬間に至るまでの出来事を、時系列順に語り始める。『サンセット大通り』『深夜の告白』のような古典的名作と同じく、このノワール感たっぷりのナレーションが、今作のほぼ全編を通じて観客を導く。

“最初から始めさせてくれ”と彼は言う。“いや、ほぼ最初というべきか… 込み入った話なんだ”。

また、この機を利用して入れ替わりの問題に触れ、第一作のファンを喜ばせつつ、第二作から観る人を引き込むような形で、うまく回避してもいい。名探偵ピカチュウに“**気になるよな、どうして俺がこんな事になってるのかって…**”というような二重の意味を含むセリフを語らせれば、この語りの時点までに何が起きたのかという目の前の疑問について述べながら、勘の鋭い観客向けに、ハリー・グッドマンは何らかの事情があって再びピカチュウの体に戻ったらしいと示唆することができるだろう。





MENU

(SET)

CANCEL



繰り返される語り

ここで留意すべきは、このノワール風のアレーションが映画の全編を通じて繰り返される点だ。『深夜の告白』では語り手が死にかけていることが徐々に明らかになるが、本作でもアレーションが入るたびに、ピカチュウと一緒にいるのは誰か、撮影者は誰なのかが少しずつ明らかになっていく。

ピカチュウがポケモンの寄せ集めチームを指揮し、撮影班に仕立てようと奮闘しているのが分かってきたあたりで、プリンがドスンと音を立ててフレームインして来たり、ポッチャマが電気をつけてしまって転んだり、といった笑えてキュートでおマヌケなひねりを入れられる。このポケモン集団は、かわいいカオスを生み出すだけでなく、これから展開する大きな謎にも絡んでくる存在だ。

ピカチュウが“すべての始まり”を語り出すと同時に、回想シーンが始まる…



銀行強盗… それもポケモン連れの

筆者は『GAMEBOY』の冒頭に世界観を構築するTVニュースの映像を入れたいと思っていたが、その一つがポケモン・ワールドにおける銀行強盗だった。ポケモン連れの強盗とはどんなものか、というのは筆者が掘り下げてみたかったワクワクするアイデアだ。その爆発的なポテンシャルを、今作で活かしてみたい。

ライムシティは“人間とポケモンが手を取り合って暮らす”街であり、“バトルも、トレーナーも、モンスターボールもなし”という掟がある。この銀行強盗は大騒ぎになる。なぜなら：

- A)街一番の裕福な一族が所有する銀行で、白昼堂々行われた、リスキーな銀行強盗である
- B)犯人はライムシティの根本原則を破っている

ライムシティの掟が破られた以上、ただ事ですむはずがない…

前代未聞の**ポケモン・アクション**

ブリガロンが壁をぶち抜き、マスク姿の3人組が計画を実行する。

ここは敬意と独創性をもって、銀行強盗の概念を覆す極めて効果的なアクションシーンを作るチャンスだ。出口を塞ぐ眠り込んだカビゴンから、金庫から金を運び出すあいだ援護射撃をするカメックスに至るまで、抜群のポテンシャルがある。ここはポケモンたちのユニークさや、誰も経験したことのないタイプの映画である今作の無限の可能性を、世界に披露する見せ場だ。



計画は頓挫する

だが強盗の最中、何かが計画を狂わせる。動揺と混乱に紛れて、何が起きたのか正確には分からないが、**犯人の一人が現場に置き去りにされ**、ライムシティ警察と彼らのパートナーポケモンに逮捕される。

犯行現場に到着する名探偵ピカチュウ ヒーロー登場

シャーロック・ホームズやバットマンが犯行現場に登場する時と同じく、誰もが一步退いて彼のために場所をあける。これは探偵としての技量と腕前に対する敬意の表れだ。ここでもまた二重の意味を持たせたシーンを構築し、シークエル／ソフトリブートのコンセプトを示すことができる。第二作から入った観客に名探偵ピカチュウというキャラクターを紹介しつつ、第一作とのつながりを見たいファンの要望も満たす。

肝心なのは、この場面に映画的な重厚さを持たせること。名探偵ピカチュウは探偵映画の大物らしく登場する… **実際、そうなのだから。**

原注：仲間の警官や捜査員、また目撃者はどうやってピカチュウの言葉を理解しているのかという問題は、後ほど大きな謎の一部として説明される。ここでは誰も疑問をいだいていない。



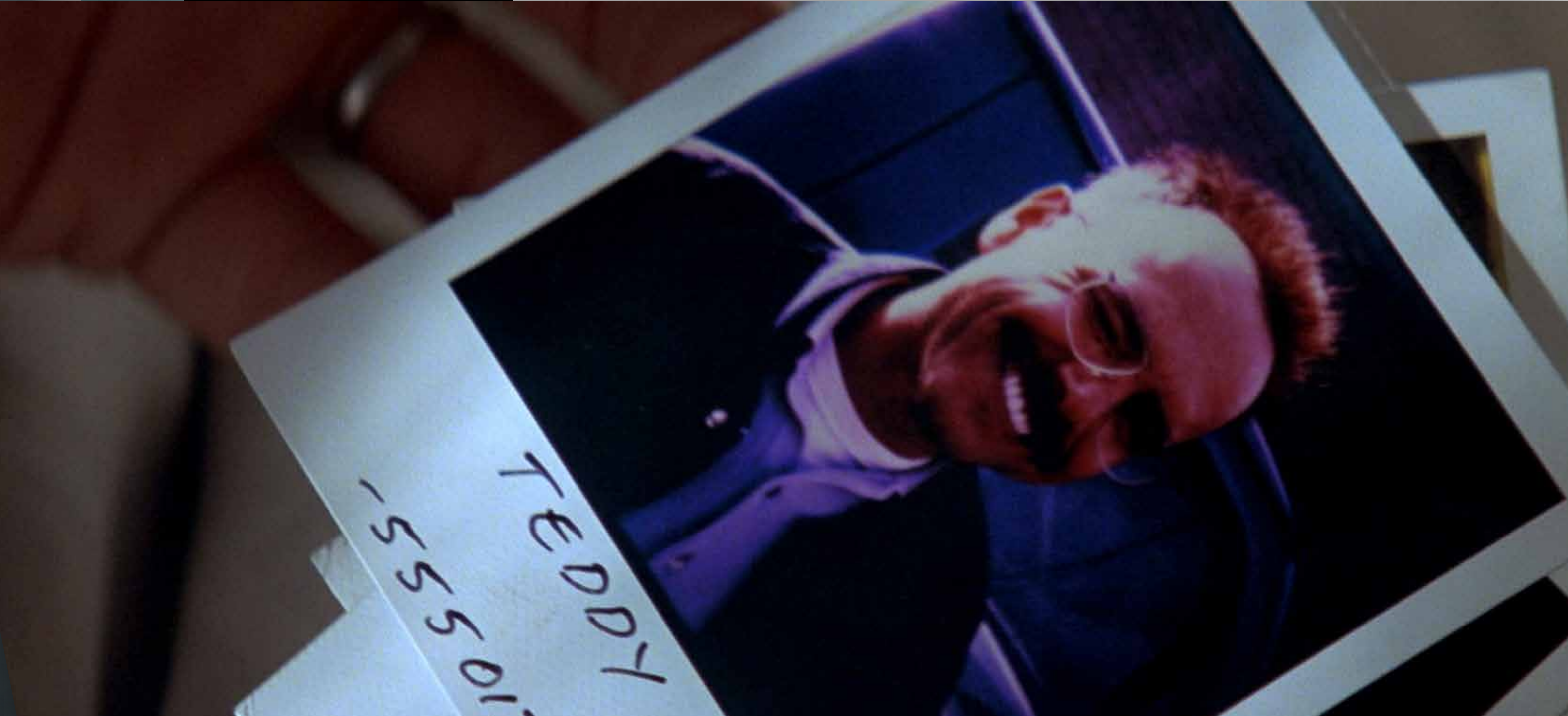
続いて登場するのは、名探偵ピカチュウの “信頼できる”新パートナー

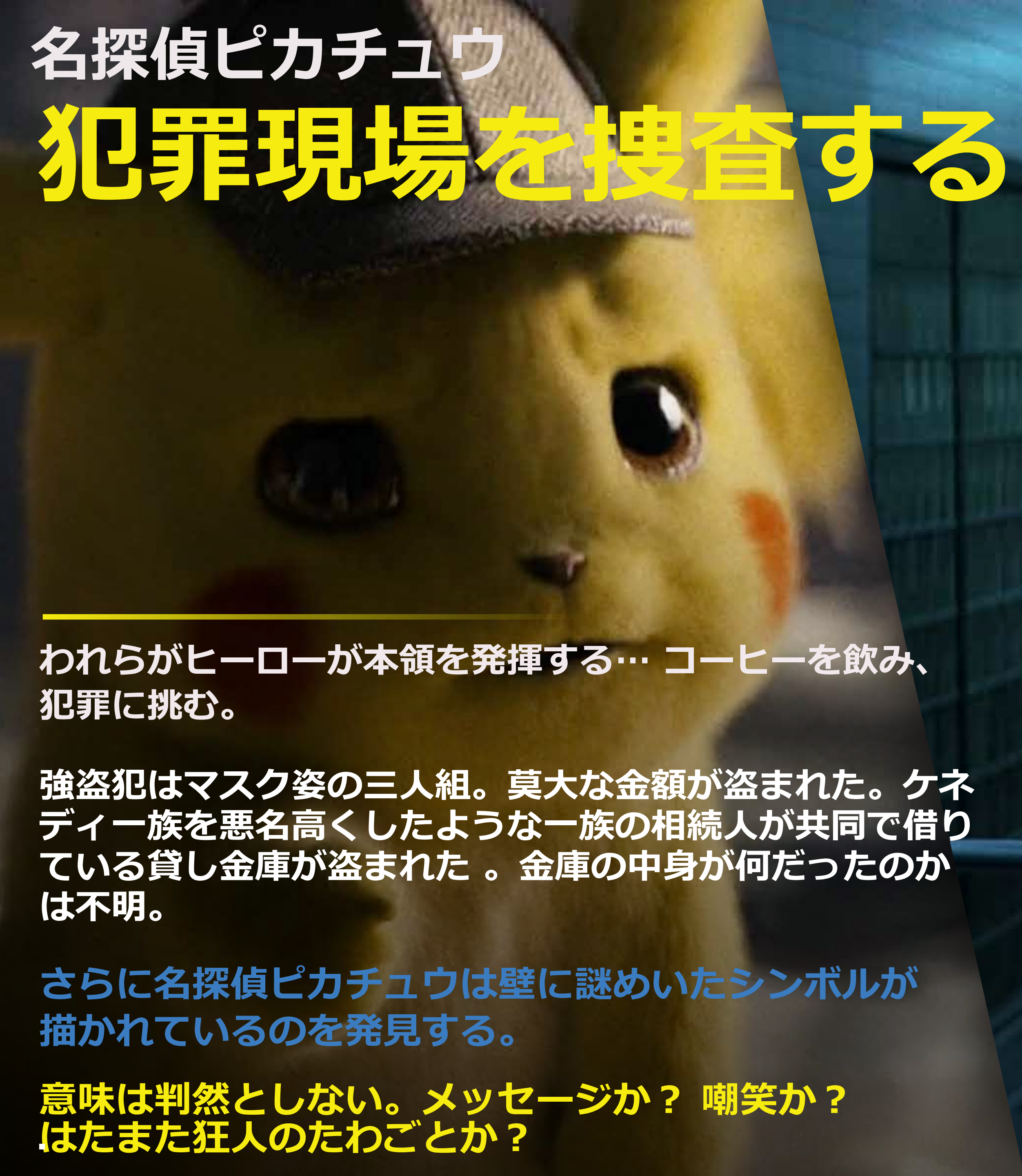
ノワール風のナレーションの中でピカチュウは、この強盗事件から新しいパートナーと組むことになったと語る。いつパートナーを組んだのかははっきり思い出せないが、とても優秀な男だ、と。このキャラクターは事件の解明に挑むピカチュウの相談相手という役どころで、二人の関係は何度も思いがけない形で変化する。今のところ、ピカチュウにとって彼は唯一信頼できる相手だ。この設定の巧妙な点は、第一作からの方向転換であると同時に、大きな謎の一部でもあるところだ。

前に述べたように、どうやってピカチュウと人間の会話を成立させるかという問題がある。ピカチュウが人間全員と話せるという案を採用しない場合は、このパートナーをピカチュウの言葉を理解できる人間プロキシにしてもいい。そして後々彼とピカチュウとの家族の絆、もしくは別の理由を明かす。

または、これも先に述べたが、このパートナーを“ポケモン霊媒師”またはポケモン超能力者とすることもできる。この場合、パートナーは本当にピカチュウの言葉を理解できてもいいし、できなくてもいい。後者の場合、ピカチュウがこいつは俺の言うことが分かってないとボヤクシーンが作れるだろう。二人で別のポケモンを尋問する際、ポケモン語が分かるピカチュウがこう叫んでもいい。**“こいつらはそんな事言っていない！ 俺には全部聞こえてるんだぞ！”**

後ほどこの問題には、ファム・ファタールまたは別のキャラクターが本当にピカチュウの言葉を理解できた（理由は先に述べたように家族の絆でもいいし、別の絆でも構わない）という形で決着をつける。何が最善かについてはTPCとの協議を待ちたい。





名探偵ピカチュウ 犯罪現場を捜査する

われらがヒーローが本領を発揮する… コーヒーを飲み、
犯罪に挑む。

強盗犯はマスク姿の三人組。莫大な金額が盗まれた。ケネ
ディー族を悪名高くしたような一族の相続人が共同で借り
ている貸し金庫が盗まれた。金庫の中身が何だったのか
は不明。

さらに名探偵ピカチュウは壁に謎めいたシンボルが
描かれているのを発見する。

意味は判然としない。メッセージか？ 嘲笑か？
はたまた狂人のたわごとか？





現行犯逮捕されたのは： 誰からも愛されるポケモンチャンピオン



いよいよ名探偵ピカチュウが現場に取り残された犯人に歩み寄る。マスクの下の素顔があらわになると、居合わせた全員が驚く。クリーンなイメージで誰からも愛される有名ポケモントレーナーではないか。マイケル・ジョーダンやトム・ブレイディが銀行強盗を働いたようなものだ。一体どういうことだ？

ビーナスとセリーナのウィリアムズ姉妹のように、彼も兄弟の片割れだ。

状況は謎めいている。彼が襲ったのは自分の一族が所有する銀行の、自分の一族が借りている貸し金庫だ。国民的ヒーローはなぜこんな犯罪に手を染めたのか？ そもそも、なぜ自分の一族の貸し金庫を襲ったのか？ 家族だから簡単に入れたはずなのに。

謎は深まる一方だ…

共犯者の正体は？

堕ちたチャンピオンは、共犯者について黙して語らない。彼らの名前さえ明かそうとしない。ピカチュウがどんなテクニックを駆使しても、チャンピオンは反応しない。沈黙を貫く。

警官に連行される直前、チャンピオンはピカチュウに向かって不吉な捨てゼリフを吐く。**“真相を探り出した時、お前は死んでいる”**というような言葉を。ピカチュウとパートナーは、狂人のたわごとだろうと取り合わない。だとしてもなぜ、憧れのスター選手はここまで堕ちたのか？

何かがおかしい。



ピカチュウは引き続き 犯罪現場を捜査する



ピカチュウは**モノクロの防犯カメラ映像**を見る。ブリガロンが金庫室の壁を破り、強盗事件が幕を開ける。プロの犯行である。

(原注：3つの要素はすべて後に意味があった事が判明する)

遺留品はなし

計画が狂い、チャンピオンが脱出できなくなると、共犯者の一人が急いで戻ってくる。だがマスク姿の強盗犯は、チャンピオンを助けるのではなく、ブリガロンが入ったモンスターボールを持ち去る。ピカチュウはこのことに気づくが、特に疑問は抱かず、遺留品を残さないための行動だろうと片付ける。

目撃者の証言

ピカチュウとパートナーは目撃者に話を聞くが、全員意識が朦朧としており、かんばしい成果は得られない。数人が**“走馬灯を見る”**、**“首を長くして待つ”**のような、よくある言い回しだが現実的にはあり得ないことを言う。**“世界が灰色に見えた”**とか、**“あっという間に白黒がついた”**とかだ。ピカチュウはトラウマとショックのせいだろうと片付けるが、後々これが意味を持ってくる…

ドライブの目的地は ライムシティの郊外

名探偵ピカチュウとパートナーが手に入れた手がかりは、チャンピオンと裕福な一族との関係、そして消えた貸し金庫の中身だ。

二人は荷造りをして車に乗り込み、ライムシティの郊外を目指す。そこは一族の巨万の富と権力が壁となり、警察の力さえ及ばない場所だ。

二人の目的は何がチャンピオンの人生を狂わせ、白昼堂々と犯罪に走らせたのかを明らかにすることだ。貸し金庫の中身は何だったのか？ 家族の他のメンバーが関わっているのか？

車は目的地を目指してひた走る…



由緒ある邸宅に到着

喧騒に満ちたライムシティの市街とは打って変わって、一族の領地は果てしなく広大で壮麗だ。普段はさまざまな地域で暮らしている家族が、一堂に会するための静かな別荘である。ここではポケモン世界の上位1%のエリートの暮らしが垣間見える。

（原注：この一族をもっとポケモンの伝承に沿った、昔からの根強いファンにウケるものにするなら、彼らをシルフカンパニーのオーナー一族にしてもいいし、裏でロケット団とつながっていることにしてもいい。完全にオリジナルのキャラクターにしてもいい。TPCとの協議を待ちたい）

『ザ・ロイヤル・テネンバウムズ』 x 『サクセッション』。自分が何に足を踏み入れようとしているのか、名探偵ピカチュウはまだ知らない。

（原注：この文書に登場するポケモンの画像の大部分は、筆者が実際にキャラクターと組ませたいと思っているポケモンとは一致しません。現状手に入る中で最も高品質なレンダリング素材というだけです）



チャンピオンの冷酷な一族 との対面

アガサ・クリスティー作品、『殺人ゲームへの招待』、『ナイブズ・アウト』などと同等のコメディ俳優やドラマ俳優によるアンサンブルキャストを構想。

一族のメンバーには、それぞれのコメディやドラマの可能性を引き出す、似合いのパートナーポケモンがいる。

探偵コンビは、栄光の座から転落したチャンピオンについて、ご家族にいくつか質問をしたいと申し出る。家族は一見協力的で、チャンピオンの窮状に心を痛めているように見える。彼に同情する者もいれば、家族の面汚しだとみなす者もいる。

エアレス（女相続人）
THE HEIRESS

パトリアーク（家長）
THE PATRIARCH



トレーナー
THE TRAINER



マッスル
THE MUSCLE



ブラット (悪ガキ)
THE BRAT



グル (導師)
THE GURU

名探偵ピカチュウとパートナー

案内付きのVIPツアーで領地をめぐる

規模も、壮麗さも、ヴェルサイユ宮殿に負けない場所。
多くの秘密を抱えた場所でもある。



ツアーを通じて観客は家族のメンバー数人と出会い、
大まかな地勢を把握する。領地内を好きに移動するポ
ケモンたちの個性的な姿も多々見かけられる。ため息
が漏れるほどの栄耀栄華だ。



一族に仕える 住み込みのポケモン博士

気さくな博士は探偵コンビに自己紹介し、あの素晴らしい子供達に最初のポケモンを渡したのは自分だと語る。博士は子供達の成功を誇りに思っており、最も将来を嘱望されていたチャンピオンが銀行強盗で捕まったのは非常に残念だと言う。

ピカチュウは、調査の過程で知った事実を持ち出す。博士は“物議をかもす退化論の提唱者”だったのだ。だが博士は“その理論はとっくの昔に捨てた”と主張する。（原注：のちのち意味を持ってくる）

ラボで行われている研究や博士の来歴について突っ込んだ質問をする前に、探偵コンビは次の目的地へと急ぎ立てられる。





二人が案内されたのはプライベートジム 緊迫のポケモンバトルに決着がつきかけている

名探偵ピカチュウが聞く。“ライムシティではバトルはご法度じゃなかったか？”

パートナーが答える。“彼らはルールの外側にいるんだ”

バトルに勝ったのは、チャンピオンの元チームメイトであり兄でもある人物だ。（以降、プロ-プロと呼ぶ）

彼は一族の財産の相続筆頭者でもある。

マーク・ザッカーバーグとパトリック・ベイトマン（『アメリカン・サイコ』の主人公。ウォール街にある投資銀行で副社長を務める一方で快楽殺人を繰り返す）を合わせたような男だ。攻撃的な自信をにじませる彼は、探偵コンビに会うと挨拶もそこそこに、自分のゲッコウガを相手に親善試合をしないかと言い出す。大きなお屋敷に入ったとたん、テニスカラケットボールの勝負を挑まれる状況を想像してほしい。



名探偵ピカチュウ、 ポケモンバトルを挑まれる

ここはスタジアムではないが、
観客が待ちかねていたものが始まる
熾烈な駆け引きと戦術
映画館のスクリーンで楽しめるポケモンバトルだ



緊張感とスポーツマンシップに満ちた試合は、ポケモンバトルの複雑さと精緻さを理屈抜きで描く。同時にこのアクションシーンでは、ポケモンバトルと並行して尋問という第二のバトルも展開される。ポケモン能力がぶつかり合うのと同じ激しさで、質問と答えの応酬が続く。

尋問は白熱する。

チャンピオンとプロ-ブロは、幼少期からポケモンバトルの訓練を受けていた。

チャンピオンとプロ-ブロのデュオは全国チャンピオンだ。

だがプロ-ブロは、弟にはこのゲームを生き抜くための**闘争本能**が欠けていたと言う。だから弟は道を踏み外したのだ、と。



名探偵ピカチュウの 激しい追求

ピカチュウはプロ-ブロに、銀行強盗の計画を事前に知っていたのかと聞く。

プロ-ブロが事件に関与していた可能性をピカチュウが示唆すると、バトルはさらに激化する。

プロ-ブロは言う。“周りを見ても、俺達は金で買えるものなら何でも持ってる。銀行強盗をやる理由なんかないだろ？ 弟は頭がおかしくなったに違いない”

プロ-ブロは明らかにうれしそうに、弟は一族から縁を切られたと明言する。

尋問は白熱するが、
終止符を打ったのは

名探偵ピカチュウ、 屈辱の大敗北

だが自分の圧倒的な強さを証明しないと
気がすまないプロ-ブロは、三回勝負にして
バトルを続けようと迫る。

ピカチュウは仕事を理由に断る。プロ-ブロは
しぶしぶピカチュウの幸運を祈り、今夜の“祭り”
を見ていくといいと誘う。



名探偵ピカチュウは一族のパトリアーク（家長）に質問する
消えた貸し金庫の中身は何だったのか

だがそこで邪魔が入る 華麗な招待客の登場だ

まるでタイミングを見計らったかのよう
に、ポケモンを連れたセレブが屋敷に
あふれかえる。贅を尽くしたパーティー
に備えて誰もが着飾っている。

なぜ彼らはこのパーティーに招かれたのか？





ポケモン・コンテストの前夜祭

一族は年に一度、ゲームやアニメで描かれたポケモンコンテストやトライポケモンに着想を得た完全招待制の大会を主催している。

大会の精神や個性的な出場者は、ウェストミンスター・ケネルクラブ・ドッグショーに似ているが、このポケモン・ショーではポケモンがペット扱いされていないことは強調して描きたい。パートナーの人間も品評の対象になる。料理、シンクロダンス、ファッションなど部門は様々だが、ポケモンとパートナーの人間は一組のチームとして採点される。

ここではミステリー映画の枠を超え、『ドッグ・ショウ!』『わたしが美しくなった100の秘密』のようなコンテスト映画の要素を取り入れられる部分だ。

曲者キャラクターが次々に登場

このパートのコメディのポテンシャルは無限大だ。人間と自慢のポケモンの組み合わせは、アイコンックにも、奇妙奇天烈にも、大爆笑にもなり得る。





アイドル
THE IDOL



ハネムナー（新婚さん）
THE HONEYMOONERS



ポケモンマニア
THE POKEMANIAC



ローンウルフ（一匹狼）
THE LONE WOLF



ラフネック（無法者）
THE ROUGHNECK



ご自慢のポケモンを見せたくて
ウズウズしている他の出場者と
違い、プロディジーだけは自分
の“モンスターボールを手の内に
隠し”ておこうとする。サプライ
ズは大会でお披露目する時まで
取っておくつもりなのだ。

プロディジー（神童）
THE PRODIGY

優勝候補の大本命は
一族のエアレス（女相続人）と
彼女の愛するマフォクシー

エアレスは堕ちたチャンピオンとプロブ
ロの妹だ。彼女はバトルの世界に身を置く
代わりに、ポケモンのコンテストに人生を
賭けてきた。

エアレスは数年連続の優勝者だ。身びい
きだとかイカサマだとか言う者もいるが、
彼女のマフォクシーの並外れた能力は誰に
も否定できない。





突然、上流階級の名士の集まりに投げ込まれた名探偵ピカチュウとパートナー

前夜祭が幕を開ける

そしてどんなノワールにも一筋の光があるように… 謎めいたファム・ファタールが登場する

ヒッチコック映画のファム・ファタールたちと同様、
彼女は同じ部屋にいる全員の存在をかすませる。

彼女は“私は味方だ”と言い
協力を申し出る

だが彼女の真意は？
彼女は何者だ？ 何を知っている？

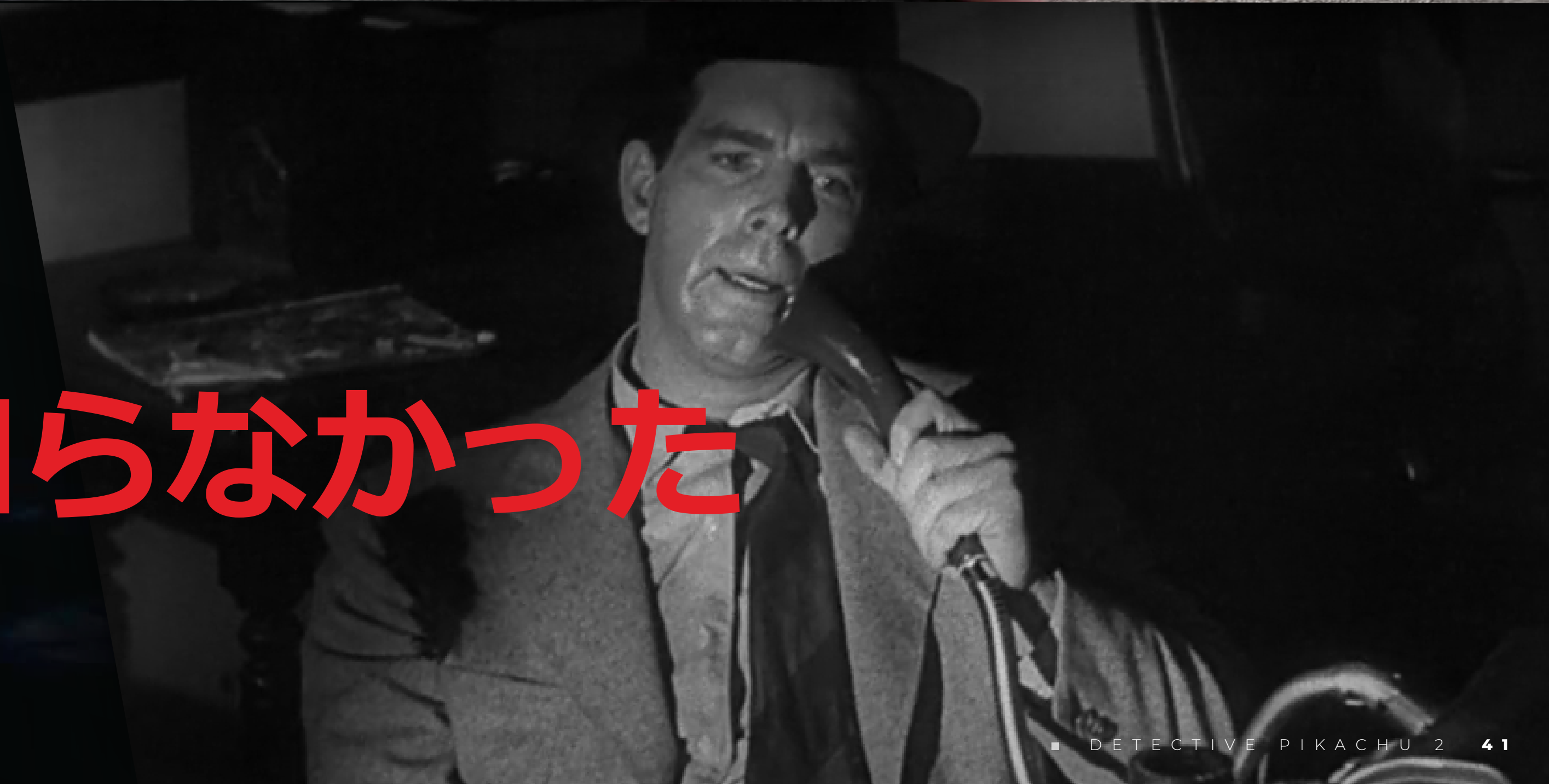


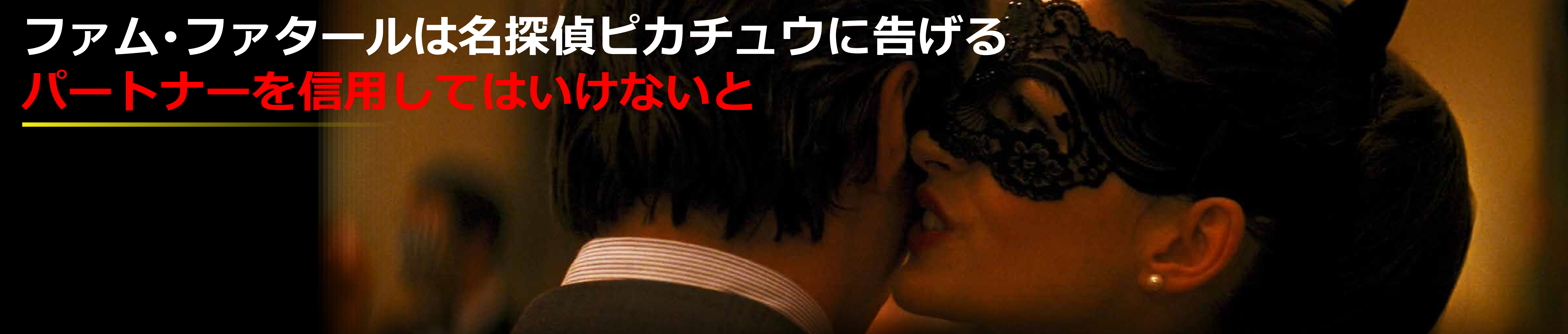
ここで“現在”へカットバック

名探偵ピカチュウは語りはじめる このシーンに至るまでの出来事すべてを…

ピカチュウはまだビクついている。いつ追っ手が戻ってくるか分からないからだ。急いで自分の見聞きしたものを記録に残さねばならない。だが、誰のために撮影しているのだろう？ ピカチュウは本格ノワールを彷彿とさせるスタイルで、ここまで観客が見てきた出来事について、彼ならではの視点からコメントを述べていく。

“このレディが誰なのか、俺は知らなかった
このあと彼女は爆弾を落とす…”





ファミ・ファタールは名探偵ピカチュウに告げる パートナーを信用してはいけな



ファミ・ファタールにいつ彼とパートナーになったのか覚えているかと問われ、探偵ピカチュウは必死に思い出そうとするが、記憶は曖昧だ。

もし彼女が正しいなら、彼は危険の渦中にあり、誰を信じていいか分からない状況にいる。

もし彼女が嘘をついているなら、彼を操ろうとしているこの女は誰なのか？

名探偵ピカチュウはファミ・ファタールに一族との関係を聞き出そうとするが、そこで邪魔が入り、新たな展開が…



前夜祭の客は屋外へと案内される
一族が用意したサプライズだ

ポケモンによる音とビジュアルのスペクタクル・セレモニー

この世界でしか経験できない、オペラとバレエとエレクトロカルショーを足したような、まさに圧巻のスペクタクル。すべてポケモンの能力によるものだ。

わずかな時間、危険な捜査も複雑な謎も忘れて、探偵とパートナーはこの瞬間を楽しむ。

だがそれもつかのま…





光と音のセレモニーの最中、奇妙な現象が起きる…

突然何もかもが

白黒に変わる

その背後にあるポケモン能力はのちに明かされるが、色を失った世界は白黒のノワール映画の雰囲気帯びる。

悪い薬でも飲まされたように、誰もが混乱する。

突然、大勢の客が眠り込む。

徐々に世界に色が戻り、セレブたちが平静を取り戻しかけた時…



耳をつんざくような悲鳴が客たちを現実に戻す。
彼らを待ち受ける新たな衝撃とは…

真っ先に行動に出た名探偵ピカチュウは気づく

新たな犯罪 が起きたことに…



彼は急いで情報を集め、状況を整理しようとするが、
混乱がそれを阻む。



最初に彼が目を留めたのは、激しく泣きじゃくる一族のエアレス

彼女の愛するポケモン、 マフォクシーが盗まれたのだ

エアレスはマフォクシーを盗んだのは
他の出場者だと主張する

悲しみと疑念に感情を昂ぶらせながらも、その確信だけは揺るがない。自分のポケモンは盗まれたのだ。自分とマフォクシーは皆に妬まれているから。



彼女は懇願し
名探偵ピカチュウに助けを乞う…

あのポケモンは私のすべて。
くれたのは一族に仕える博士よ。

だがさらに不穏な音が彼らの邪魔をする…

屋敷に響き渡る、
しわがれた動物の吠え声

ピカチュウはエアレスにすぐ戻ると約束し、次の目的地へと急ぐ。

ピカチュウとファム・ファタールは目撃する
窓の向こう、屋根の上にいるのは
マスクをかぶった人影と奇妙な獣だ

人影の背後に雷光が走る。なんという不気味さ。
なんという不吉さ。ジャンプスケアだ。

吠え声の主はあの動物に違いない。

謎の人影は
夜の闇に消える

ピカチュウは即座に追跡にかかるが、博士のラボに通じるドアが開けっ放しになっており、そこから見えた身の毛もよだつ光景に、思わず足を止める…



博士、 死体で発見される

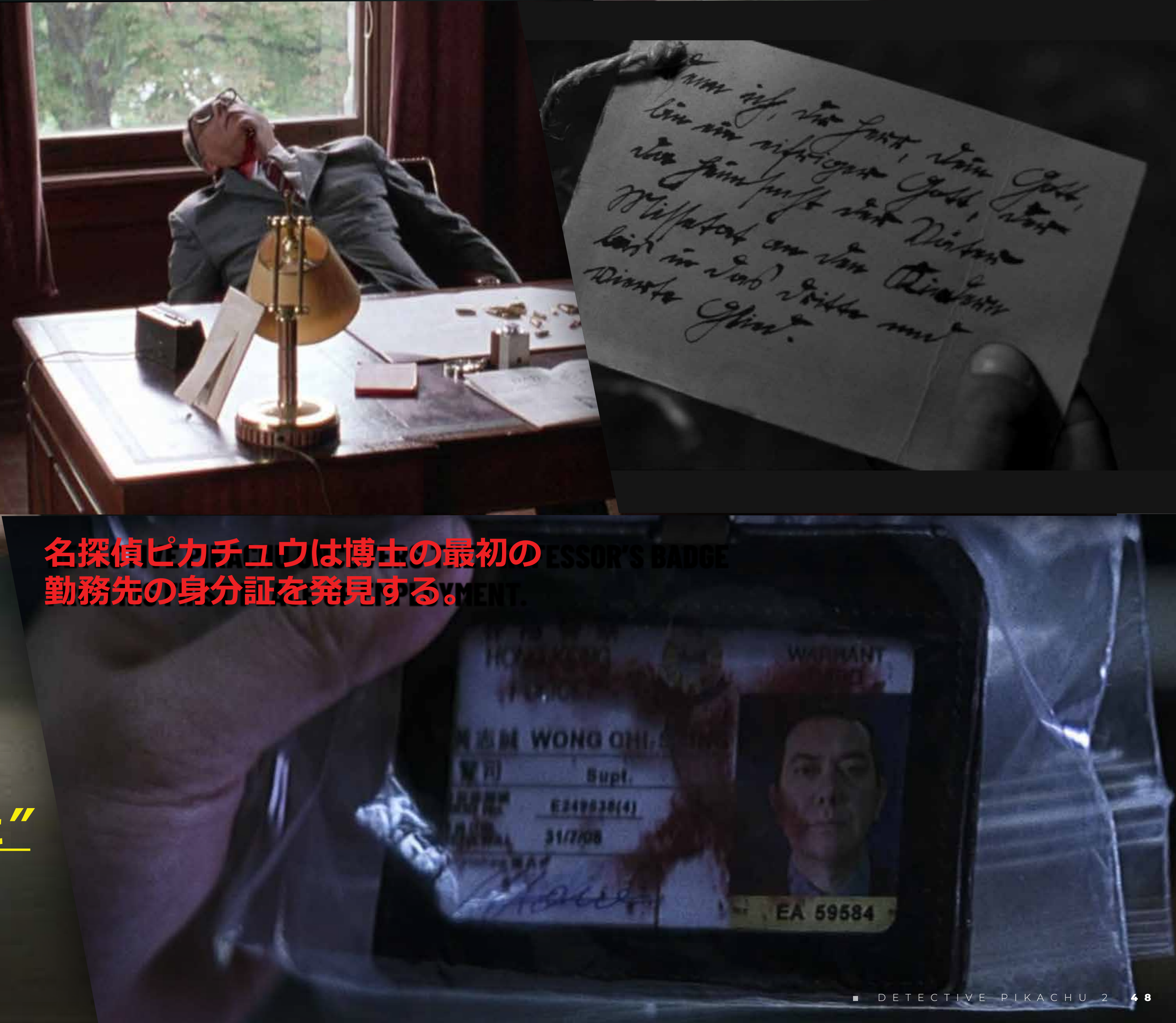
ラボは荒らされている。誰かがここで探しものをしたようだ。何かが盗まれた形跡がある。部屋中が謎めいた汚らしい粘液に覆われている。

博士の机の上に手書きのメモがある：

“すまないと子供たちに伝えてほしい。私は約束を破った”

他殺か？ 自殺か？ 博士の死にはどこか腑に落ちない点がある…

名探偵ピカチュウはライムシティで起きた銀行強盗事件も抱えているが、当分はこの屋敷にいることになりそうだ…



名探偵ピカチュウは博士の最初の勤務先の身分証を発見する。

ESSOR'S BADGE
MENT.

WARRANT
WONG CHI-SING
Supt.
E248838(4)
31/7/08
EA 59584

ピカチュウは即座に
この状況下における原則を定める：
犯人はまだ敷地内にいる。
ここは犯罪現場だ。
何人たりとも
現場を去ってはならない。



大会の最終日は 三日後

その後、容疑者達が世界中に散らばっ
てしまう

残り時間はわずかだ…



現時点では… **全員が容疑者だ**

一族、出場者、ポケモン… それとも表舞台に出てこない黒幕か？

銀行強盗、優勝経験のあるポケモンの盗難、そして博士殺し。三つの事件を同時に捜査しろというのか？

それらしい動機は全く見えない。

名探偵ピカチュウは大変な仕事を背負い込んだ

一番想定外だったのはここに来た時は疑惑の対象だった一族が（実際彼らは鼻持ちならない連中だが）逆に何者かに狙われる被害者である可能性が強まってきたことだ…



The background of the title card features three Detective Pikachu characters. On the left, a Detective Pikachu is shown in profile, looking towards the center. On the right, two other Detective Pikachu characters are visible; one is in the foreground looking down, and another is in the background looking towards the center. A large, stylized red splatter, resembling blood, is positioned between the two characters on the right. The title 'ACT 2' is written in large, yellow-outlined, sans-serif capital letters in the center. Below it, the Chinese characters '第二幕' are written in a bold, yellow, sans-serif font.

ACT 2

第二幕

浮かび上がるパターン 誰も安全ではない

自分が泊まっている部屋に戻った名探偵ピカチュウは、壁を見上げた瞬間に淹れたばかりのコーヒーをこぼしてしまう。壁一面が暗号めいた意味不明の落書きに覆われているのだ。ライムシティの銀行の貸し金庫の壁に描かれていたのと同じ落書きだ。

疑う余地はない…

銀行強盗、盗難、殺人は、**一つの線でつながっている…**



バラバラに見えた事件は 1つの連続犯罪だったのか

だが各事件はどうつながる？ ゾディアック事件 を思わせる暗号は何を意味するのか？

現実が歪曲され、白黒になる現象は、銀行強盗事件の目撃証言を思い出させる——目撃者はみんな茫然自失状態で、“黒、白、灰色”という言葉を使って自分の体験を語った。その時はよくある言い回しだと片付けた名探偵ピカチュウだが、今はそれほど自信が持てない。

名探偵ピカチュウはすぐに白黒の防犯カメラ映像を見せてくれた銀行の担当者に電話をかける。“あの強盗事件をカラーで撮影した防犯カメラはあるか？”



銀行の担当者は戸惑った口調で答える。“あの… 当行の防犯カメラはすべてカラーですが” 目撃者はショックのあまり錯乱していたわけではなかった。彼らは実際にグレースケールの世界を体験したのだ。だが、どうしてそんなことが起きたのか？

銀行強盗をモノクロで目撃させ、記録させたものの正体は不明だが、それは盗難と殺人の前に起きた集団幻覚の原因でもあるようだ。

出場者に危険が迫ろうと ショウ・マスト・ゴー・オン

コンテストの中止を提案された一族は、目の錯覚くらいで中止はできないと反対する。彼らにとっては自分たちのイメージが何より大事なのだ。

中止に反対なのは、この機会を一年間待ちに待っていた出場者たちも同じである。コンテストは彼らの生きがいなのだ。中止の提案が神をも恐れぬ冒涇行為扱いされる、抱腹絶倒のシーンが始まる。大げさなキャラクターたちが泣き崩れ、天を仰いで絶望する。ここは第一作とはガラッと趣向を変え、奇人集団に囲まれた名探偵ピカチュウだけがまともに見えるようにする。

ピカチュウには分からない——危険な捜査とこの奇人集団、どっちのほうか
ヒドいのか

EN MOLYNEAUX



勝つのは誰だ？

そうこうするうち、『リトル・ミス・サンシャイン』や『わたしが美しくなった100の秘密』のように、観客は個性的な出場者とそのポケモンに愛着を持つようになる。大きな謎の解明に挑むピカチュウのアーケと並行して、誰が新チャンピオンの座につくのかというドラマを描ける。二つのプロットが絡み合い、観客は自然に新チャンピオンを目指す出場者達に感情移入するようになる。



予測不能

エアレスとマフオクシーが一時欠場し、もはや誰が勝ってもおかしくない状況になると、競争はさらに激化する。サメがうようよいるプールに血を垂らしたようなものだ。

尋問が始まる

一人目は…ファム・ファタール

名探偵ピカチュウはファム・ファタールと彼女の過去を知ろうとする。

ピカチュウは聞く。一族に危害を加えたがっている人物に心当たりはないか？

彼女は答える。“こう聞いたほうがいいんじゃない？ あなたに危害を加えたがっている人物に心当たりはないかって”

ピカチュウがそれは脅しかと尋ねると、彼女はあなたの粘り強さに感心しているだけだと答え、こう付け加える。“ここにいる大勢の人間が、あなたに死んでほしくないと思っている”。

彼女が本気で心配しているのか、それとも一種の心理的駆け引きなのか、ピカチュウには判断がつかない。

ピカチュウはポケモンへの尋問も開始する 一匹目は彼女のポツチャマだ

第一作のバリエーションのシーンと同じく、このやり取りもコメディのポテンシャルが高い。

今回はさらに、ピカチュウが実際にポケモンと意思疎通ができるという要素が加わる。3DSのゲーム版ではこの要素が鍵になっており、ピカチュウの荒っぽい尋問術と、自分の名前を連呼するだけのポケモンの可愛さの対比が、多くの笑いを生んだ。

・





ピカチュウとポッチャマ 不本意ながら友情を結ぶ

最初の対話のあと、ポッチャマとピカチュウは映画の全編を通じて絆を育んでいく。最初は探偵と容疑者のかわいい保護者として敵対関係にあるが、時間の経過と共に、ポッチャマは相棒ポケモンとしての立ち位置を固めていく。第一作のコダックの役回りの強化版である。アニメ版におけるピカチュウとポッチャマの、かわいく愉快で時にぶつかりあう関係は、筆者のお気に入りの一つだ。このコンビをスクリーン上で再現したら、さぞかし記憶に残るアイコンックなシーンになるだろう。



尋問は続く 二人目はプロディジー “負け犬”から一転、優勝候補筆頭へ

プロディジーは犯行を否定するが、彼女にはマフォクシーを排除すれば優勝に近づくという強力な動機がある。

プロディジーは自分は何もしていないと言い張るが、エアレスには同情するどころか、彼女には大きな隠し事があるはずだとほのめかす。詳しくは語らないが、エアレスのせいで優勝を逃してきた腹いせの悪口のようなのだ。

名探偵ピカチュウとパートナーは、モンスターボールを調べさせてくれと申し出る。プロディジーは手持ちのポケモンを秘密にしてきた——マフォクシーを隠している可能性はないだろうか？ 彼女は容疑者扱いされたことに腹を立てるが、最後には全てのモンスターボールをあけてみせる。マフォクシーはいない。進化前のバージョンのフォッコがいるくらいだ。

どうやらこの線は行き止まりらしい。



パトリアークの証言

一族のパトリアーク（家長）と名探偵ピカチュウの話し合いの場が設けられる。意外にも話し合いを求めたのはピカチュウではなく、パトリアークのほうだった。彼は本気で現状を憂いているように見え、捜査協力は惜しまないと申し出る。

彼の望みは犯人が明らかになること。

そして娘の大事なポケモンを取り戻すこと。あのポケモンは苦勞して手に入れたもので、娘がよちよち歩きの頃から一緒にいる相手だ。マフォクシーは自分たち家族の一員だ。

パトリアークは感情もあらわに、信賴していた博士を殺した人間に正義の裁きを、と訴える。

彼が家名のために最重視するのは、
世間に知られず、速やかに解決することだ。

ポケモン・コンテストの二日目が終わる

負けたハネムナー、ズルがあったと申し立て

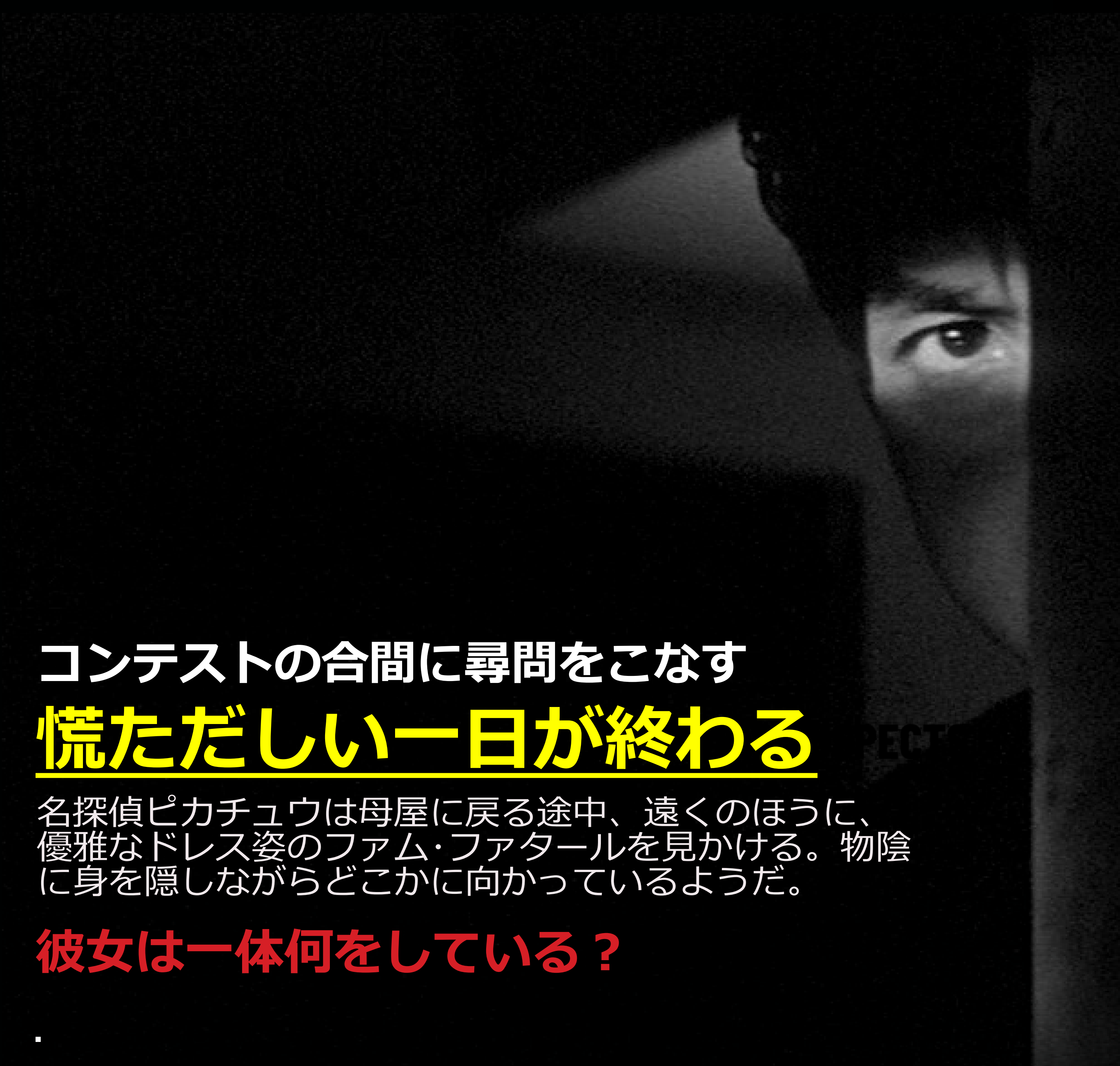
丸一年の準備期間を経て大会に臨んだハネムナー（新婚さん）は、エアレスとその予備のポケモンに敗北する。ハネムナーはエアレスがマフォクシーなしで勝てるわけがない、大会そのものが“イカサマ”だと非難する。

ピカチュウはハネムナーがエアレスに勝つためにマフォクシーを盗んだ可能性を検討する。いや、たとえそうだったとしても、ハネムナーには銀行強盗に関わる動機がない。

これは負けたショックのあまりの八つ当たりだ、とピカチュウは片付ける。

ピカチュウにとって困ったことに（観客にとっては笑えることに）、

どうやら彼は命がけの捜査に挑むと同時に、何かとオーバーに騒ぎ立てる出場者たちのお守りまでしなければならないことが明らかになる…



コンテストの合間に尋問をこなす 慌ただしい一日が終わる

名探偵ピカチュウは母屋に戻る途中、遠くのほうに、優雅なドレス姿のファム・ファタールを見かける。物陰に身を隠しながらどこかに向かっているようだ。

彼女は一体何をしている？



名探偵ピカチュウは尾行を開始する

怪しげに足音を忍ばせ屋敷内を移動するファム・ファタール

ファム・ファタールは用心深く尾行を警戒しているが、名探偵ピカチュウは一枚も二枚もうわてだ。巧妙かつ機敏に尾行術を駆使し、彼女のあとをつける様子は印象深く、かわいく、抱腹絶倒だ。

屋敷内は廊下が複雑に入り組んで迷路のようだ。
少しずつ距離を詰めるピカチュウだが…



突然、 酔ったプロ・ブロが現れ、 再戦を挑む

プロ・ブロはピカチュウと尾行対象の間に割り込み、三回勝負の続きを要求する。最悪の（そして腹立たしい）タイミングだ。

ピカチュウがいるのは立ち入りを許されていない棟だ。プロ・ブロはそれを黙っている代わりにとバトルを要求する。



彼はファム・ファタールを 守ろうとしているのか？

それとも唸るほどの金を自由にできる立場でありながら、一族を脅かす謎を解決できない鬱憤を晴らす方法をポケモンバトル以外に知らない、子供のような大人なのか？

ピカチュウは仕方なく挑戦に応じ、
ファム・ファタールを見失う…



彼は容疑者扱いされていることを 怒っているのか？

プロ・ブロは再戦するまで名探偵ピカチュウを解放しない、と言う。

今、ここで。

広大な舞踏室の真ん中で。



ballroom.

タイミングの悪いバトル

ここでパートナーが追いつき、ピカチュウは彼にファム・ファタールの尾行を指示する。



プロ・ブロがゲッコウガを放つ



ピカチュウはバトル体勢に入る

試合が始まると、ポケモン同士の派手なアクションで華麗な舞踏室が破壊される。

息つく間もない激戦のさなか、ピカチュウは酔ったプロ・ブロに、“ちょっとした用の途中だから”延期できないかと頼む。



バトルが佳境に差し掛かる頃
奇妙な現象が起きる…

またもや世界から**色が消えていく**

世界が**ゆがんで**高熱の時に 見る夢のようになる

名探偵ピカチュウは悪い薬でもものんだのか？ 違う。『ジョーズ』の恐ろしげなテーマ曲と同じく、これは事件の前触れだ。銀行強盗もマフォクシーの盗難事件も博士の死もこの現象と同時に起きていた。今度は何が起きるのか、ピカチュウは急いで周囲を見回す。

頭を回転させろ… だが時既に遅しだ。

周囲を調べていたピカチュウは、
酔ったプロ-ブロの悲鳴を聞いて振り返る

ゲッコウガがモンスターボールに戻される…
だがそれはプロ-ブロのモンスターボールではない



新たな犯罪が発生

ゲッコウガが盗まれる

犯人はマスクをかぶった人物

謎の泥棒は近くの窓からすばやく脱出する。
ピカチュウは制止しようとするが、室内が幻
覚のようにゆがんでいてうまく動けない。

泥棒の姿が消えた直後… 世界に色が戻ってくる。

プロ-ブロの容疑が晴れたのかどうか、考えてい
る暇はない…

ピカチュウは泥棒を捕らえるべく、
即座に追跡にかかる。



豪華絢爛な屋敷で 緊迫のチェイスが始まる

名探偵ピカチュウは贅沢な図書室、美術品展示室、スーパーカーが並ぶガレージなど、様々な部屋を駆け抜けていく。

豪華な屋敷が舞台の、圧巻の追跡劇

疲れを知らないピカチュウは容疑者を追い続け、やがて追うものも追われるものも屋敷の外に出る。



追跡の果てにたどり着いたのは 領地の端にある森…

ピカチュウは驚きの発見をする 見捨てられたゴーストタウンだ

この町はいつからある？ なぜ見捨てられた？

ピカチュウ、悪の巣窟へと 足を踏み入れる

容疑者の姿は見失ったものの
ピカチュウは探偵の直感に従い
廃墟と化した町の捜査を始める…



ピカチュウはふと胸騒ぎを感じる。自分には応援がない。自分がここにいることは誰も知らない。こんなに薄気味の悪い場所だというのに。

ピカチュウは謎めいた落書きだらけの建物を見て足を止める。過去の犯行現場に残されていたのと同じ落書きだ。だが今回のメッセージはこれまでのものとは違って、道順を示しているらしい。

ペンキで示された道順に従い、建物に入ったピカチュウは気づく。ここは…

見捨てられた**ポケモン**研究所

厚いホコリの層とクモの巣以外には何もなさそうだ。

だがピカチュウはペンキがしたたる道順に従って、無人の研究室に入る。

机のホコリを払ったピカチュウは気づく

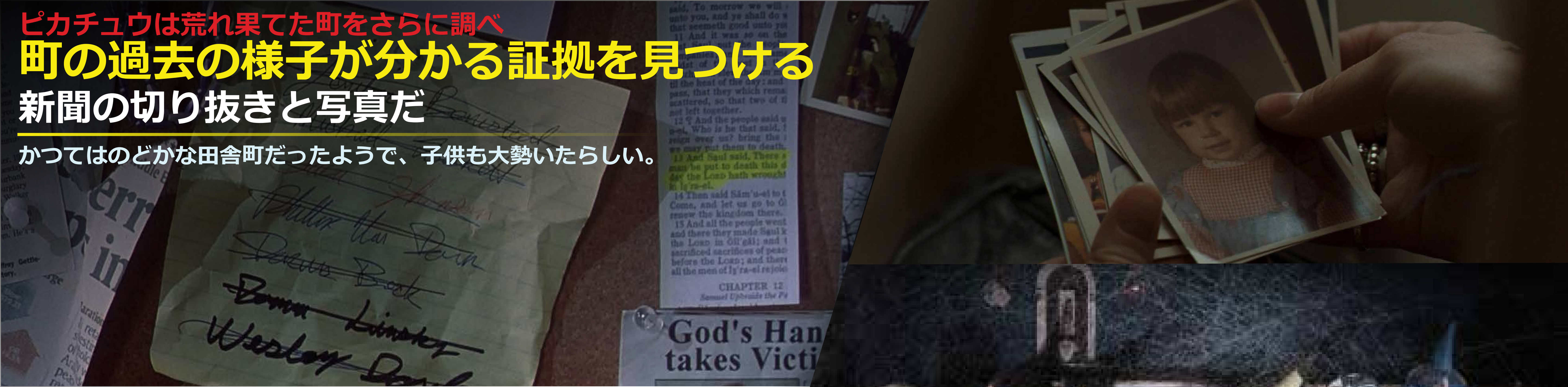
この研究室を使っていたのは
最近死体で発見された、一族に仕える博士だ！

博士はここで何を研究していたのか？

どうして死ぬはめになったのか？

ピカチュウは荒れ果てた町をさらに調べ
町の過去の様子が分かる証拠を見つける
新聞の切り抜きと写真だ

かつてはのどかな田舎町だったようで、子供も大勢いたらしい。



ホコリをかぶった
退化論の本が見つかる



名探偵ピカチュウはまだ住人がいるのかもしれないと感づく。
誰かの視線も感じる。





ピカチュウは導かれるように 見捨てられたスタジアムに入る

ピカチュウが進むに従って、現実がゆがみ、白黒に点滅する。

かつてポケモン・ファンの歓声に満ちていたスタジアムも今は荒れ果て、
破れた夢の象徴のようだ。

突然ピカチュウが足を止め、慌てて身を隠す。マスクをかぶった人物を見つけたのだ。



名探偵ピカチュウは物陰に身を潜めじりじりと接近する そこへもう一人、新たな人物が合流する

犯人は二人組だった。
チャンピオンと一緒に
銀行を襲ったのもこの
二人か？

マスクをかぶった人物が モンスターボールを手渡す

慎重で厳かな渡し方だ。二人にとっては大きな意味のある行為なのだろうか。

モンスターボールから放たれたポケモンは、プロ・ブロのゲッコウガだ。

マスクをかぶった人物が言う。“やっところまで来た… あと少しね”。
そしてマスクを脱ぐ。



…ファム・ファタールだ！

感情が昂ぶったのか、その頬を涙が伝っている。

世界が色あせていく
だがそこで二匹のポケモンが物陰から姿を現す

ゾロアークとムウマージだ

二匹はフードをかぶった二人組の左右に並ぶ

ようやくモノクロ化が止まり、世界は元に戻る。

二匹は幻影の能力を持っており、周囲の景色をゆがめて人間に幻を見せることができるのだ。



幻覚の使い手

あくタイプのゾロアークとゴーストタイプのムウマージの能力を知れば、銀行強盗の現場で起きた幻覚と、一族の屋敷で招待客が見た幻覚の謎が解ける。

ZOROARK（ゾロアーク）

ゾロアークは現実と区別がつかない幻影を作り出し、いっぺんに大勢の人間を化かすことができる。すみかの森に幻の景色を作り、自分のテリトリーを隠して巣を守ることさえできる。自身は変身能力を持っておらず、変身した幻を見せるだけだ。人間に化けると人間語を喋れる。攻撃の幻影を見せることもでき、そのあまりのリアルさにはカメラも騙され、攻撃された側は物理的なダメージを負ったと錯覚するが、幻に物理的なダメージを与える力はない。孤独なトレーナーがゾロアークに幻を作らせ、孤独の慰めとするのもよくあることだ。



MISMAGIUS（ムウマージ）

ムウマージが使う強力な呪文の効果はさまざまで、相手を苦しませることも、幸せにすることもできる。鳴き声を聞いた人間はたいてい頭痛と幻覚を起こす。相手を眠らせることも、それとは悟らせずに奇妙な夢の世界に送り込むこともできる。ムウマージが眠り込むか気絶すると、術にかかった相手は目を覚ます。

原注：光のセレモニーの最中、客たちを突然眠り込ませたのは、ムウマージの能力だ。この二匹を組み合わせれば、ワクワクするようなやり方で現実をアレンジできるだろう。

名探偵ピカチュウは容疑者との距離を徐々に詰めていく…

二人目のマスクをかぶった人物の正体は？

ピカチュウのナレーションが観客を導く。“俺もずいぶん人生経験を積んだつもりだが、このあとに起きたことには度肝を抜かれたよ”

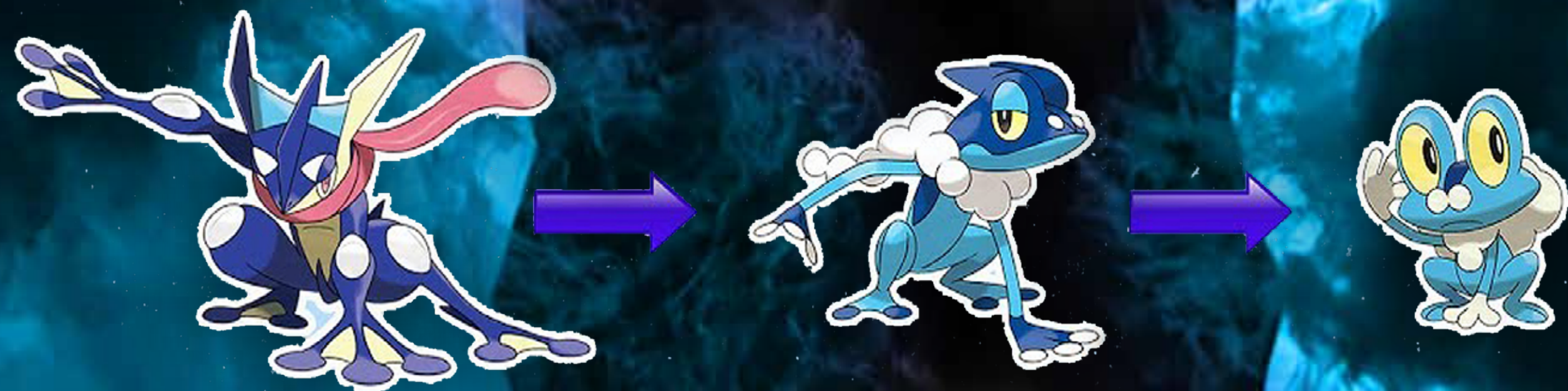
このあと起きるのは、ポケモンの自然の法則に反することだ。



突然、フード姿の人物が謎のガスを使う

謎のガスの驚くべき効果でゲッコウガはケロマツに“退化”する

名探偵ピカチュウはそのスプレーが博士の死後にラボから盗まれたものだと気づく。





これまでTPCはポケモンを退化させるアイテムを様々な形で出してきた。
ポケモンカードゲームと『ポケモン不思議のダンジョン』シリーズがその好例だ。

だが今作で使われるアイテムは、映画のストーリーと謎に即した完全に新しいものにしたい。

ごく初期の作品も含めてポケモンカード（ポケカ）のほぼ全世代に“退化スプレー”カードがあり、『ポケモン不思議のダンジョン マグナゲートと∞迷宮』にもフロア中の敵ポケモンを進化前の状態に戻す“まきもどしだま”がある。ポケカや『ポケモン不思議のダンジョン』シリーズは、過去のゲームやアニメから派生したスピンオフであり、これらのアイテムをそのまま映画に取り入れるつもりはないが、三人の“悪役”の感情のアーキを強調するため、これらと似た効果を持ちながらも、今作ならではのユニークさがあるアイテムを作れないか、皆様にご相談したい。

このアイテムは今作の博士が、ラボと研究のスポンサーである一族の要請を受けて発明したものであるという説明を入れる。発明の動機は複数のパターンが考えられるが、いずれにせよ目的は一族の繁栄の継続ということにする。

・**ポケモン・コンテスト向けにポケモンの若さを保ち／進化を抑えるため**——伝統的なポケモンバトルではポケモンの強さを最大限に引き出すために進化が欠かせないが、一族はコンテスト向けにポケモンに経験を積ませながらも若さを保つ道具がほしいと考えた。進化済みのポケモンが退化して未進化の初期状態に戻るとするのは、予想外の副作用だった。

・**妨害工作のため**——こちらはより邪悪なパターンで、対戦相手のポケモンを強引に退化させ、バトルとコンテストの両方で弱体化させるのが目的だった。

このアイテムの正確なメカニズムについてはTPCの皆様と話し合い、ベストな形を探りたい。これは必ずしも“退化”スプレーという名前である必要はない。最近発表された『New ポケモンスナップ』のイルミナオーブや、映画『名探偵ピカチュウ』第一作に登場した様々なアイデアと同じく、ポケモン・ユニバースに新しく加わるアイテムという位置づけだ。

79-81ページで“悪役”たちがこんなことをした意味と、なぜそれが彼らにとって（また映画全体にとって）重要だったのかが分かるはずだ。



全てのピースが つながり始める

ノワール風のアレーションを通じて
観客はピカチュウの思考プロセスを
追う。ピカチュウは観客がここまで
見てきたものの意味に気づき始めた
のだ。





哀愁ただようノワール風のナレーションが続き
ピカチュウは銀行強盗の真の目的が
金ではなかったと気づく。
狙いはチャンピオンのモンスターボールだったのだ…

AND THAT'S WHY
TRUE EMPHATIC
名探偵ピカチュウは
ひらめく…

消えたポケモンを持っていたのは
一族の成功者三人だ

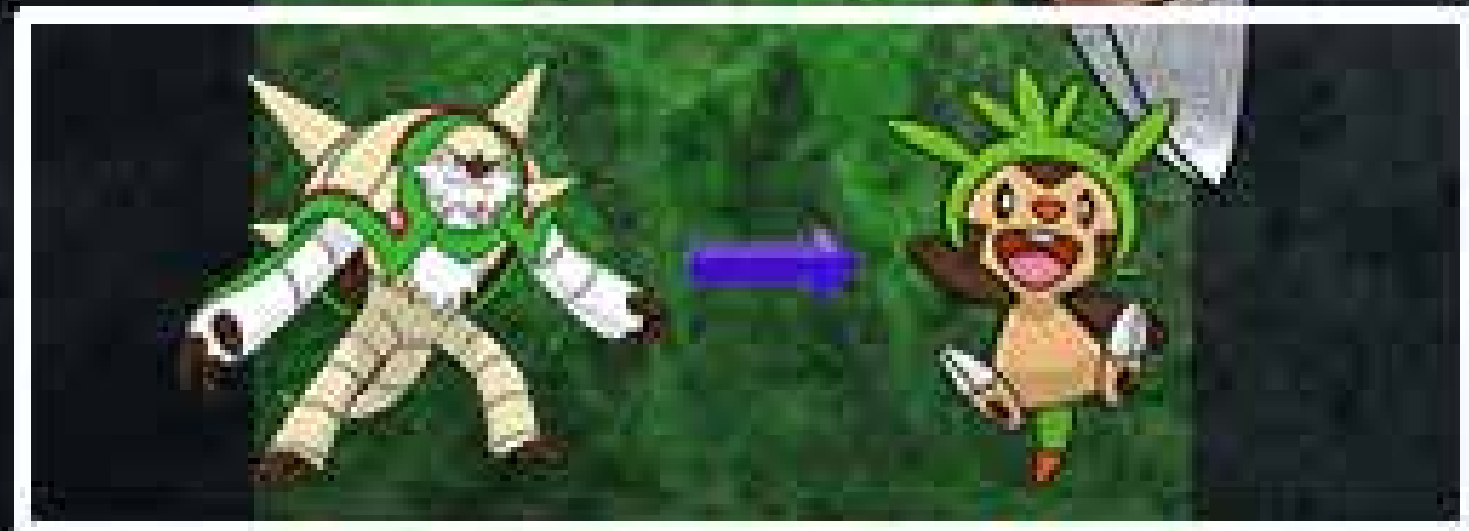


そして消えたポケモンの
共通点といえは？



彼らは 第六世代の御三家ポケモンだ

ポケモン・ワールドには通過儀礼があり、子供は十歳になると地元の博士が渡してくれる三匹のうちから初めてのポケモンを一匹選ぶ。





プロディジーは**フォッコ**を



ファム・ファタールは**ケロマツ**を持っている



ハリマロンを持っているのは誰…？



犯人との距離を詰めながらピカチュウが気づく…

見捨てられたスタジアムに住み着いた者たちがいる

野良ビッパの群れだ

おバカで有名なビッパがわらわら集まってくる。
見たこともない黄色のポケモンに興味津々らしい。
ピカチュウは静かにさせようとするが、
ビッパたちのテンションは上がる一方だ。



そうこうするうち、ビッパたちは静寂を破り
陽気なけたたましい鳴き声をあげる。“ビィィィィィッパ”！

ピカチュウの隠密行動は失敗する… よりによってビッパのせいで…



犯人たちは即座に反応する 一部始終を見られていたのだ

追跡が始まり、ピカチュウはビッパに“乗馬”し
町じゅうを逃げ回る。





追い詰められるピカチュウ

万策尽きたかに見えた時、ノワール風のナレーションが入る：

“命運尽きたと思ったぜ。探偵人生最大の汚点はどっちだろうと考えた——
目前に迫った死か、ビッパに隠密行動を台無しにされたことか”

“だがな、ホームズの活躍はワトソン次第さ”



ここで**ピカチュウのパートナー**が追いつく

パートナーはモンスターボールを取り出し、一歩も後へ引かず、
ピカチュウを守る覚悟をみせる…



緊迫のスタンドオフで 形勢が逆転



激しい雨がピカチュウとパートナーの上に降り注ぐ
今や優位に立ったのは彼らだ

パートナーが言う
“すまない”

ピカチュウは余裕を見せる

ピカチュウが言う“真実は暴かれるもの、正義は勝つものだ”

そして説明する“プロディジーのフォッコとファム・ファタールのケロマツは、それぞれ一族の秘蔵ポケモン、マフォクシーとゲッコウガを退化させたものだ。銀行強盗は三人組だった、つまりハリマロンを見つければ、その持ち主が最後の共犯者ってことだ”

そしてモンスターボールから ハリマロンを解き放つ

ナレーションと表情から、ピカチュウがパートナーに利用されていたことに徐々に気づくのが分かる。

なんということだ



世界がぼやけ、灰色がかっていくのと同時に
**ムウマージとゾロアークが
ピカチュウの視界をゆがませる**

ピカチュウは二匹の力に抵抗しきれない。
ピカチュウの意識が薄れ…

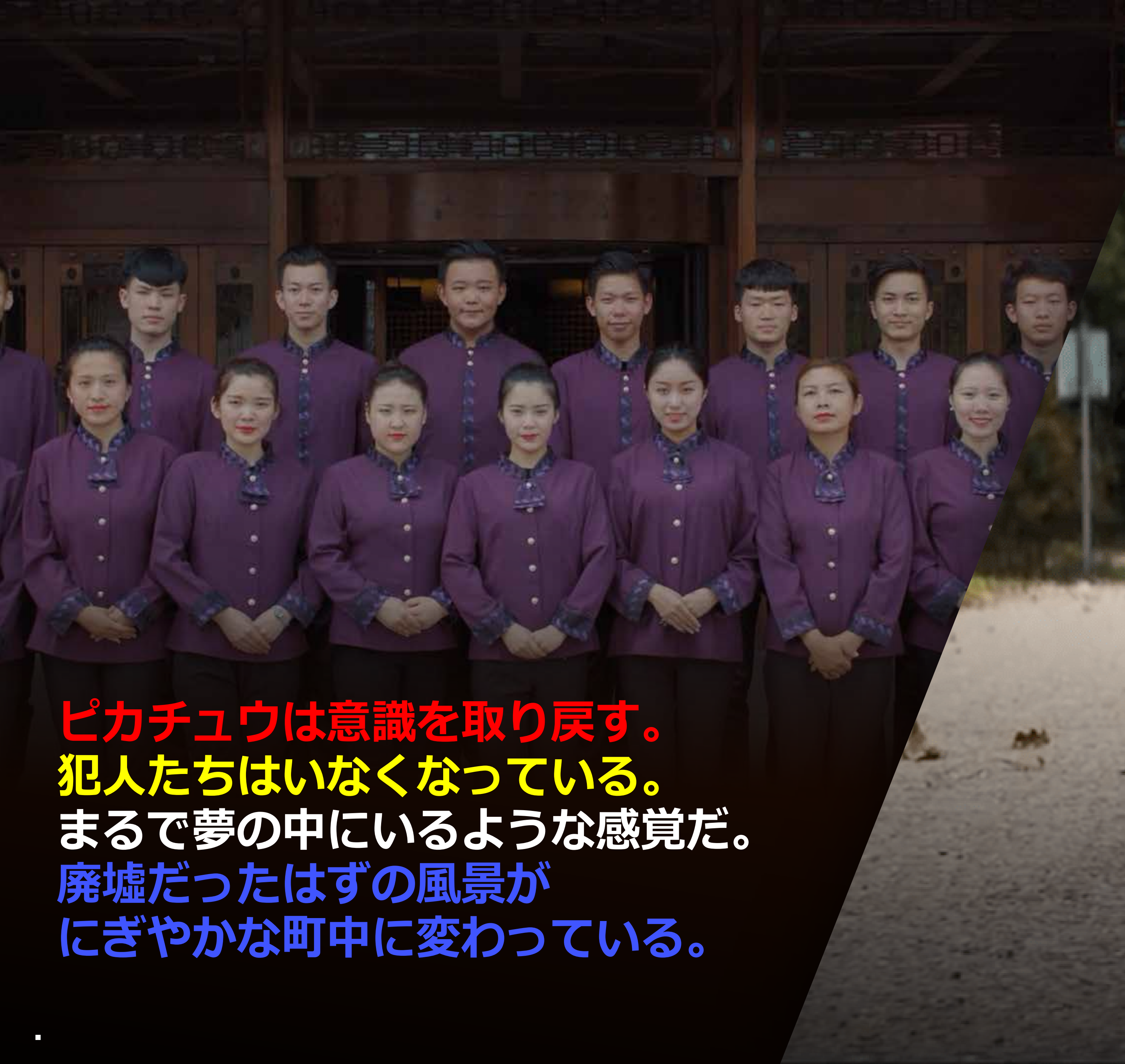
スクリーンが暗転する



A large, dark silhouette of a Pikachu is centered in the background. It is superimposed on a large red prohibition sign, which consists of a thick red circle with a diagonal slash from the top-left to the bottom-right. The entire graphic is set against a dark gray background.

MIDPOINT

ミッドポイント



ピカチュウは意識を取り戻す。
犯人たちはいなくなっている。
まるで夢の中にいるような感覚だ。
廃墟だったはずの風景が
にぎやかな町中に変わっている。



ここはどこだ？

ピカチュウは町の人々に聞き込みをする

時計はポケモン・コンテストがまもなく終わる時刻を示している。

ピカチュウは周囲の人に聞いて回る “今日は何日だ？”

陽気な女性が笑って答える “何言ってるの、博士が三つ子のために町にいる日でしょ”

博士という言葉聞いてピカチュウは目を丸くする。

今日は博士が三つ子に御三家ポケモンを渡すために町にいる日だ。



元気いっぱいの三つ子が 自転車でやってくる

女の子が二人、男の子が一人だ

三つ子の周囲の空気は輝いて見える。ピカチュウは彼らのエネルギーに吸い寄せられるように、笑う子供たちのあとを追う。

高揚感が伝わってくるようだ。三つ子は言い合う “今日は人生でいちばん大事な日だね”

子供たちは自転車で町を駆け抜ける。住人全員が顔見知りの小さな田舎町らしい。

大人たちは三つ子に手を振り、誕生日おめでとうと声をかける。

この子たちが成長して、マスクをかぶった犯罪者になるのだろうか？

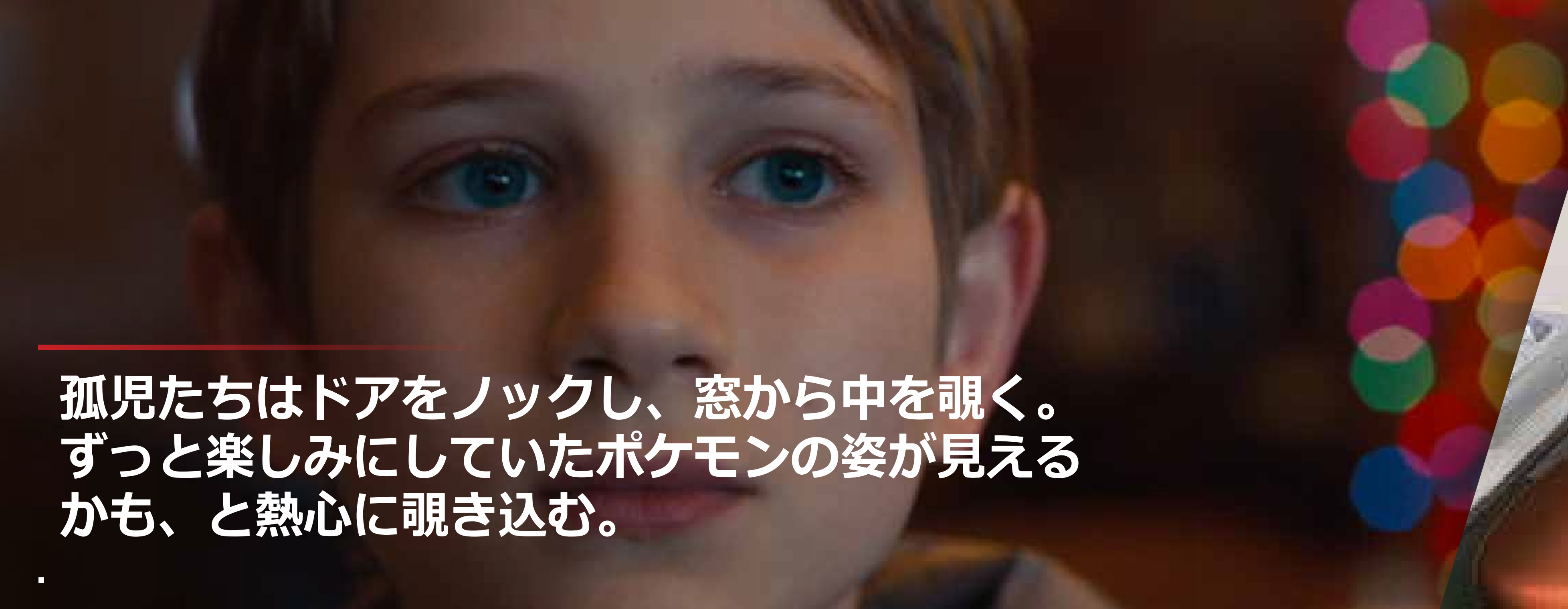


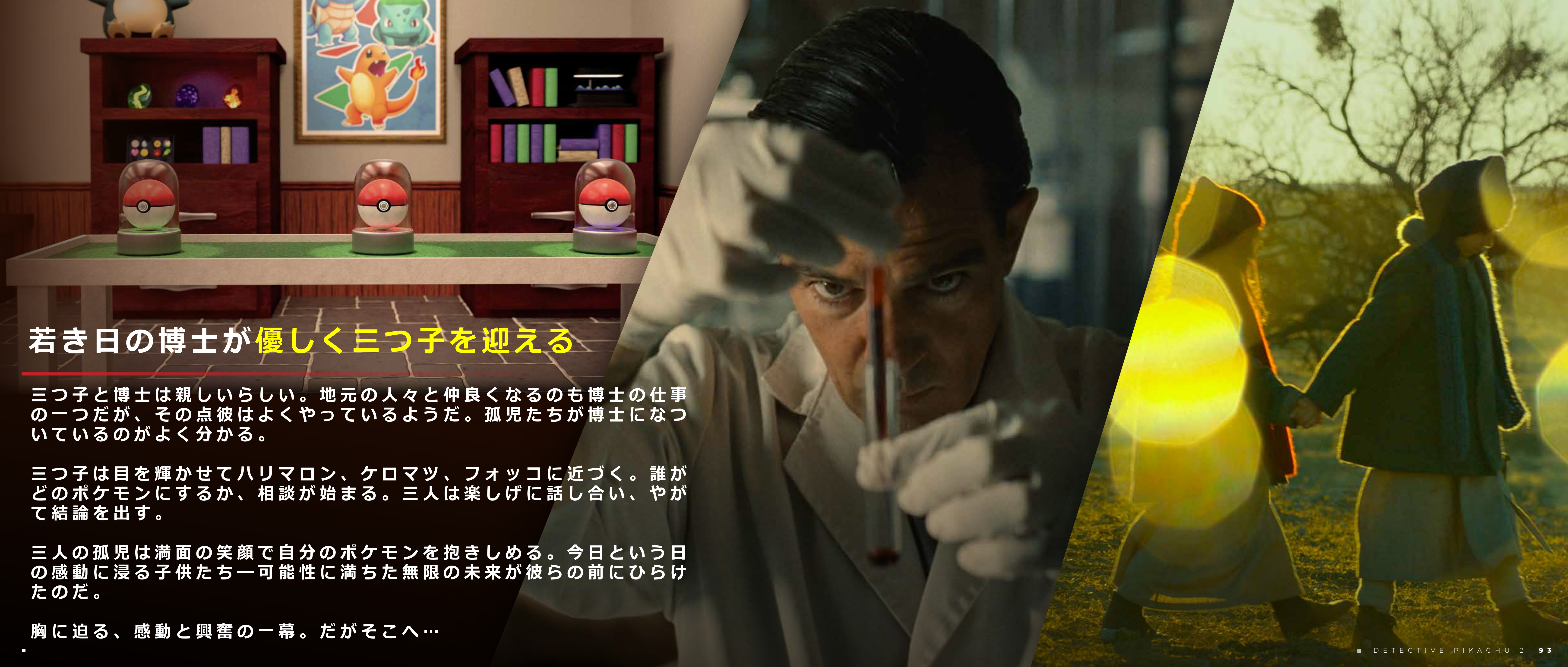
三つ子がポケモンセンターに着く

さっきピカチュウが発見したのと同じ建物だが
廃墟ではない。



孤児たちはドアをノックし、窓から中を覗く。
ずっと楽しみにしていたポケモンの姿が見える
かも、と熱心に覗き込む。





若き日の博士が優しく三つ子を迎える

三つ子と博士は親しいらしい。地元の人々と仲良くなるのも博士の仕事の一つだが、その点彼はよくやっているようだ。孤児たちが博士になついているのがよく分かる。

三つ子は目を輝かせてハリマロン、ケロマツ、フォッコに近づく。誰がどのポケモンにするか、相談が始まる。三人は楽しげに話し合い、やがて結論を出す。

三人の孤児は満面の笑顔で自分のポケモンを抱きしめる。今日という日の感動に浸る子供たち—可能性に満ちた無限の未来が彼らの前にひらけたのだ。

胸に迫る、感動と興奮的一幕。だがそこへ…



悪が乗り込んでくる

不吉な黒塗りの高級車がポケモンセンターの前で止まる。

エンジンをかけたままの車内には身なりのいい男たちが座っており、彼らを見ると博士は落ち着きを失う。観客は博士の表情から喜びが消え、恐怖が浮かんだのに気づく。

黒ずくめの男たちが車を下り、ポケモンセンターに近づいてくる。ノックもせず、我が物顔で入ってくる…

ピカチュウはフロントシートに座った若き日のパトリアーク（家長）がその様子を見守っているのに気づく。



特権と復讐の起源

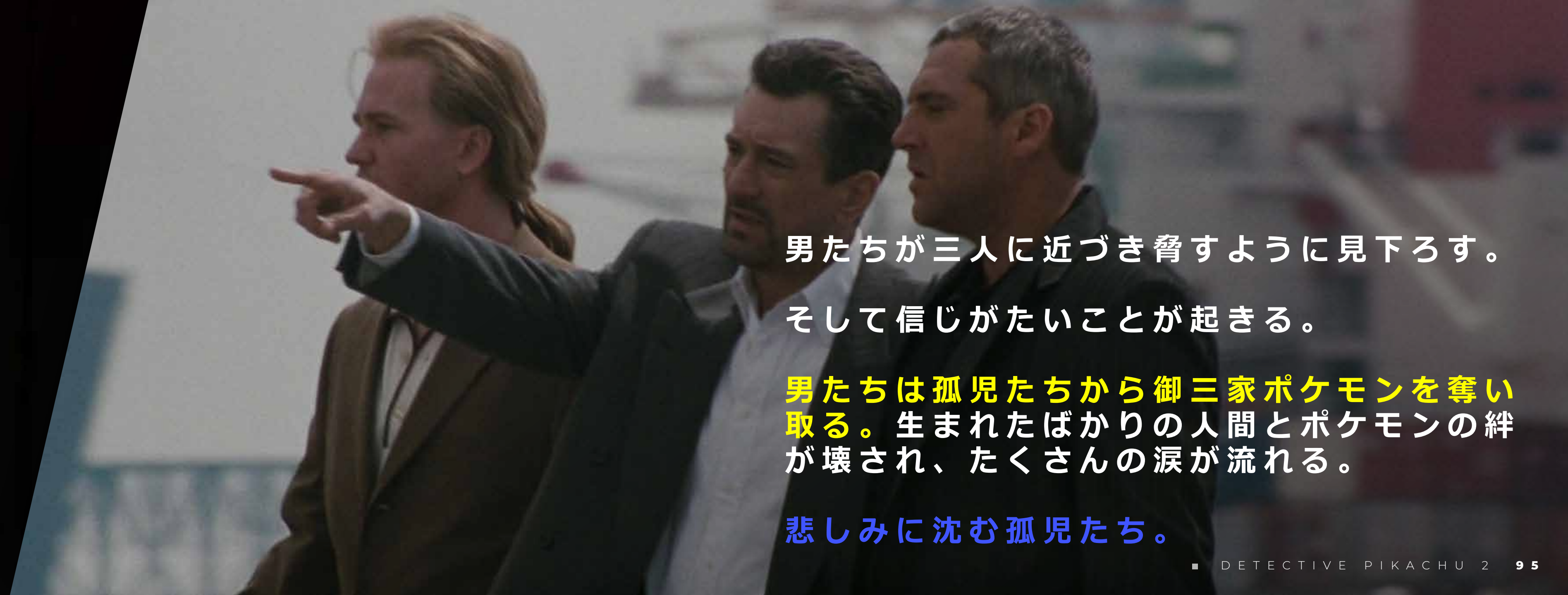
男たちと博士の間で激しい口論が始まる。

黒ずくめの男たちは研究資料を乱暴に荷造りし始め、孤児たちは怯える。

口論の果てに、博士は孤児たちの元にやってくる。

博士は三人と目を合わせられないようだ。

そして“**すまない**”と言い、背を向ける。



男たちが三人に近づき脅すように見下ろす。

そして信じがたいことが起きる。

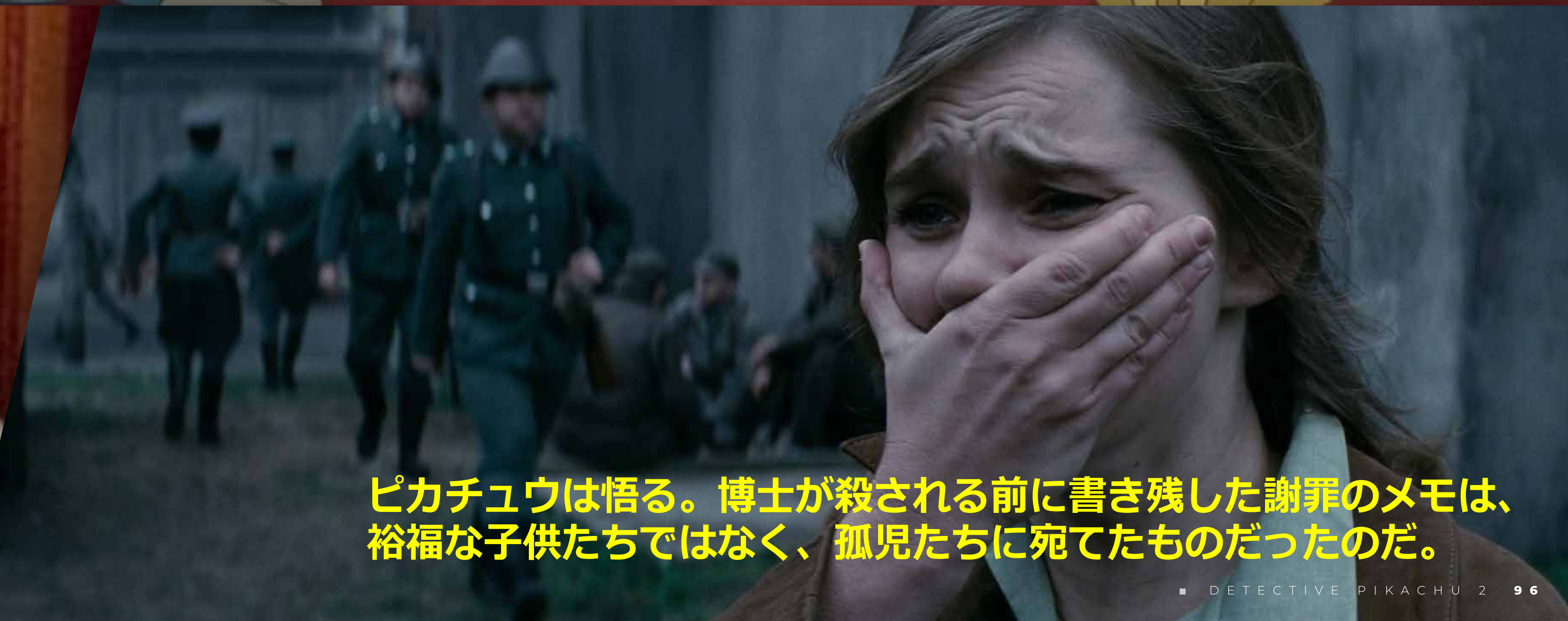
男たちは孤児たちから御三家ポケモンを奪い取る。生まれたばかりの人間とポケモンの絆が壊され、たくさんの涙が流れる。

悲しみに沈む孤児たち。

博士と三匹のポケモンは 外の車へと連れて行かれる

三人の子供が車から下りてくる。若き日のチャンピオン、エアレス、プロ・ブロだ。

孤児たちは建物の中から、裕福な子供たちが不当に
手に入れた新しいポケモンを受け取るのを見ている。



ピカチュウは悟る。博士が殺される前に書き残した謝罪のメモは、
裕福な子供たちではなく、孤児たちに宛てたものだったのだ。

ピカチュウは気づく、事件の動機は
復讐だ

30年がかりの計画

奪われた通過儀礼

子供は10歳になると、ポケモントレーナーになるため旅立つことが許される。

今観客が見ているのは、金持ちの欲望のために人生を狂わされた三人の子供が、『オールド・ボーイ』『モンテ・クリスト伯』ばりの綿密な復讐計画を立てるまでの経緯である。

この事件が三つ子と町全体の運命を
変えた様子が映し出される。

ポケモンセンターは閉鎖された。

一族は自分たちの屋敷の建設用地として、
町の土地をまるまる買い取った。

幸福と経済の中心だったポケモンを失った町はさびれ、やがて誰もいなくなった

町が見捨てられても
三つ子には行く場所がなかった。
彼らは町に残った。絶望と共に。



一族は被害者だとピカチュウは考えていたが
彼らは潔白ではなかったのだ

一族の成功は
他者の犠牲の上に成り立つものだった



ポケモンはみんなのものであるはず
だがこの裕福な一族は
上位1%のエリートだけがチャンピオンになれるようにした

ポケモンは“偉大なイコライザー（平等をもたらすもの）”だが、一族は不正な手段を使い、ポケモン・ワールドのあらゆる業界で王者の地位を金で買った。誰を傷つけようと、いくつの夢を潰そうと、お構いなしで。

町の解体を始めるために工事業者が現れると…

孤児たちは 森に逃れた

飢えて疲れ切った子供たちは森をさまよう。ポケモンがいないのに、トレーナーを目指す旅立ちの真似だけしているような物悲しさが漂う。

運命の出会い

以前の暮らしを奪われた子供たちは
ゾロアークとムウマージに出会う。

二匹のポケモンは能力を使って
“あり得たはずの未来”を子供たち
に見せる。

子供たちは自分たちを待っていた
はずの暮らしと冒険を目の当たりにする。

They see the life and the adventures they would go on.

ゾロアークの幻影とムウマージの能力を組み
合わせると、願望が幻として見える。
幻は子供たちを復讐へと駆り立てる。

THEY WANT THEIR CHILDHOOD BACK 子供時代を返せ

THEY CORRUPTED THE PAST. THE PRESENT HAS ALTERED FOREVER 不正が生んだ悲劇は 孤児たちの人生を一変させた

THEY TRANSFORM OVER TIME INTO SELF-MADE ROBIN HOOD FIGURES TO EXPOSE THE CORRUPTION OF THE 1% AND REGAIN THE REGION THEY WERE BOBBED OF.

時は流れ、三つ子は自力で義賊ロビン・フッドのように立ち上がる。上位1%の不正を暴き、奪われたポケモンを取り戻すために。

三人に同情せざるを得ない事情があったことを知り、ピカチュウは苦悩する…



幻影が解けていく
にぎやかだった町は廃墟に戻る



欠けていた最後のピースが揃う
すべての発端は破れた夢だった

ゾロアークとムウマージはピカチュウと観客に、
『ウインド・リバー』のトレーラーハウスのシーン
や『オールド・ボーイ』でオ・デスが自分の若き日の
経験を追体験するシーンを彷彿とさせる、短編映画
のようなインタラクティブな回想を見せる。



三人の孤児は
ピカチュウの推理が正しいと認め
“悪者”は自分たちではないと主張する

ファム・ファタール、プロディジー、ピカチュウの“パートナー”は彼を騙していたことを謝罪する。そしてここで終わるわけにはいかないと言い、計画を達成するためピカチュウに協力を求める。

誰を信じればいいのか分からなくなったピカチュウは聞く。なぜ博士を殺した？
だが三人は殺していないと主張する——自分たちは人殺しではない。
子供時代に悲しい思いをしたが、博士を恨んだことは一度もない。



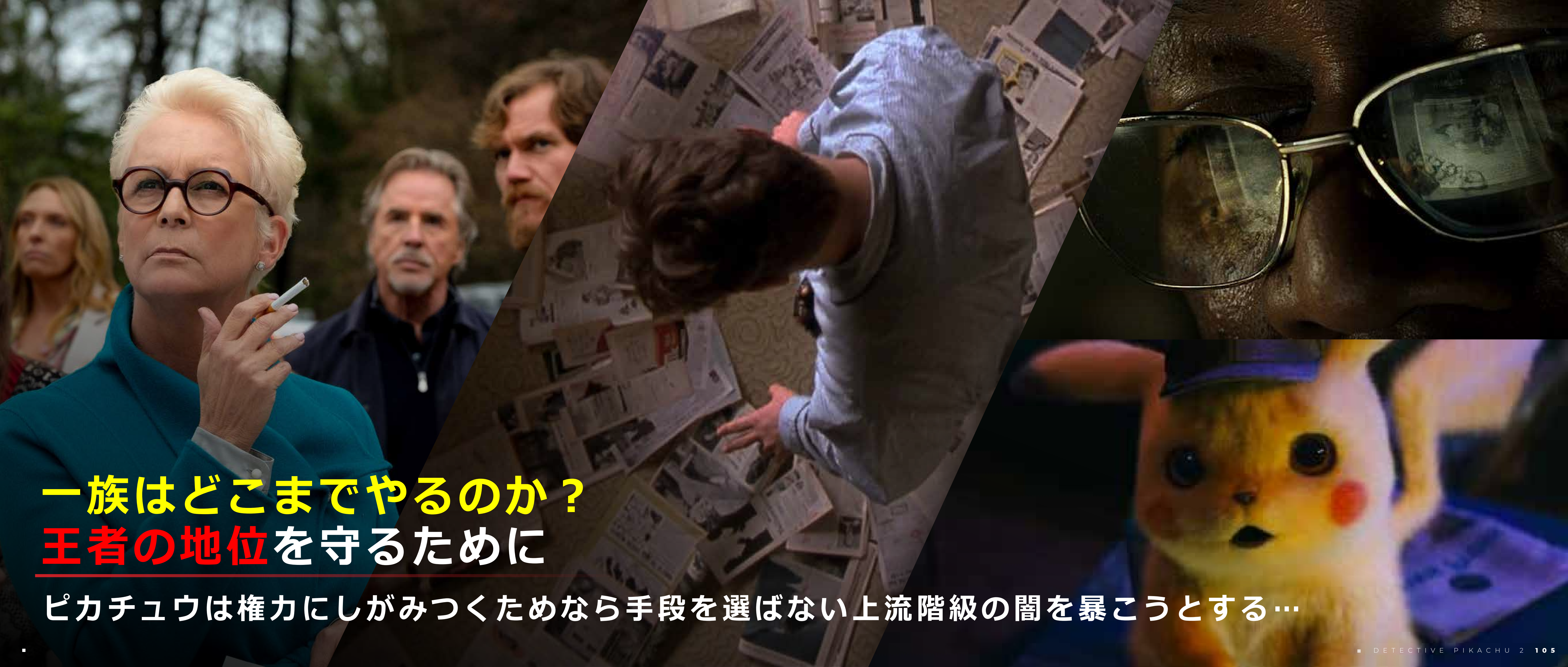
新たな謎が浮上する…

孤児たちは一族が博士を殺したと考えている
彼は不正の生きた証拠だからだ

パトリアークは我が子たちをチャンピオンにするために
博士を買収したのか？
やがて博士の存在が負担になったのか？

孤児たちによれば、一族の悪辣ぶりはピカチュウの想像を超えたものだ。我欲のために一つの町を潰せる連中が、一人の人間の命など気にかけるだろうか？
ポケモン世界の自然の法則を狂わせる退化スプレーを作ろうと企むような人間が、何を躊躇するのだろうか？

博士を殺した犯人を見つけ、同時に一族の正体を暴かねばならない。



一族はどこまでやるのか？
王者の地位を守るために

ピカチュウは権力にしがみついたためなら手段を選ばない上流階級の闇を暴こうとする…

孤児たちはピカチュウに手を組もうと申し出る 一族の不正の証拠をつかむため協力を求める

未解決の要素は残っているものの、ピカチュウは孤児たちの主張をほぼすべて信じる。彼らの過去に同情も感じている。

ピカチュウが解かねばならない謎はまだまだたくさん残っている…

- ・チャンピオンはなぜ孤児たちに協力したのか？
- ・貸し金庫の中身は何だったのか？
- ・ファム・ファタールはなぜピカチュウに実の兄弟を信じるかと警告したのか？



ピカチュウと喧嘩っ早いポッチャマ 屋敷に戻る

ポケモン版の“良い警官、悪い警官”戦術で 孤児たちの主張を一族にぶつける

パトリークは最初動揺したものの、それは誹謗中傷だと反論する。そして町の元住民に関する報告書や写真が入った分厚いフォルダーを持ち出し、一族が“公益のための土地収用”に払った大金のおかげで住民の生活がどんなに良くなったか、事細かに説明する。

パトリークは、一族は孤児たちに逆恨みされた被害者だという主張を変えようとしな



一族の私設護衛部隊 行動を開始

やはりパトリークは
警察も手が出せない権力の持ち主だ
ピカチュウとポッチャマは孤児たちに
警告しなければならない。



ピカチュウは孤児たちとの待ち合わせ場所に向かい うっかり彼らの居場所を一族に知らせてしまう

このシークエンスには絶大なポテンシャルがある。ポケモンをうまく使ったSWAT部隊の突入のようなシチュエーションを作り、クライマックスでピカチュウは自分がおとりとして使われたことに気づく。

我らがヒーローが隠れ家に到着すると…
孤児たちは捕まる

彼らは裏切り者を見る目でピカチュウを見る。
ファム・ファタールは涙をこぼしながらピカチュウに言う。
“御三家ポケモンを守ってやって。彼らにはもうあなたしかいないの”

ピカチュウは未解決の問題について聞こうとするが…



ライムシティ警察が孤児たちを連行する

一族の元に戻りたくない御三家ポケモン からくも脱出

ポッチャマは彼らを隠れ家に誘導し、一族は追っ手としてさまざまなポケモンを放つ。攻撃的なディグダ、またはオノンドの群れが——狩りを始める。

このセクションはオールポケモンのシーンで構成される。『GAMEBOY』にもあった『奇跡の旅』『リトルフット』的な要素だ。

今やピカチュウが信じられるのは仲間のポケモンだけだ。



一族にとって
事件は終わったも同然

ピカチュウのための祝賀会が開かれるが、何もかも虚しいだけだ。
ピカチュウは一族の罪を一つも証明できていない。

今ここで身を引けば安全だが、名探偵ピカチュウは
正義が実行されるまで突き進むのをやめない…



ピカチュウが屋敷に戻ると同時にコンテスト最終日が幕を開けるが
そこでは不正が堂々とまかり通っていた



ピカチュウは、一族が他者の運命を意のままに操れる権力をひけらかしていると感じる。

出場者たちに謎めいた面白おかしい災難が降りかかる。コンテストに出場するポケモンの多くは進化を抑制する“かわらずのいし”を持たされているが、その石が次々と紛失し、進化したポケモンは本来の“体重別階級”を上回ってしまう。

悲しい事に、ポケモンはもはや
“偉大なイコライザー（平等をもたらすもの）”ではなくなってしまった



火に油を注ぐように エアレスがコンテストに復帰する

優勝経験のあるマフォクシーは不在だが、主催者側はルールを曲げ、エアレスに新しいポケモン
フォクスライの使用を許す。

フォクスライは狙った獲物がいるとこっそりマーキングし、においをたどって尾行する。
ピカチュウは即座に、一族はこのポケモンに自分を尾行させ、孤児たちの潜伏場所を探り当てたのだと気づく。

出場者から不満の声が上がるが、審判団はエアレスが異例の事態で一時欠場を余儀なくされたことを理由に
フォクスライの使用を許可する。



ピカチュウが発見した手がかりにより ポケモンコンテストの不正と一族と チャンピオン最後のトーナメントが結びつく

ピカチュウは点と点がつながりつつあると感じる。この
ままいけば孤児たちの無実を証明できる…

だが次の発見で、すべてがひっくり返る…

ピカチュウが見つけたのは **新たな謎の落書き**

メッセージを残していたのは孤児たちではなかったのだ。

では一体誰が？

誰が暗号を残したのか？

ピカチュウのノワール風のアナレーションが観客を導く。“アーサー・コナン・ドイル卿はこう言った。
“不可能なものを取り除いた後に残ったもの、それはどんなにあり得そうになくとも、真実だ”





暗がりの中であるポケモンのシルエットが
ピカチュウの前に立ちはだかる



敵か、味方か？

ドーブルだ

ペンキがにじみ出る絵筆のようなシツポに、ベレー帽に似た丸い頭

ノワール風のナレーションは告げる “ドーブルが俺に何を伝えようとしていたにせよ、これほど伝言役に向かないポケモンもいない。誰が雇ったのか知らんが、もっといい候補が897 もいたはずなのに。ヤドン から機密情報を受け取るほうがまだマシだ”





言い伝えによるとドーブルは絵筆のようなシッポで
縄張りをマーキングし、痕跡を残さない

謎めいたメッセージはすべてドーブルが残したものだった。
だが、なぜ？ ドーブルにそうさせたのは誰だ？

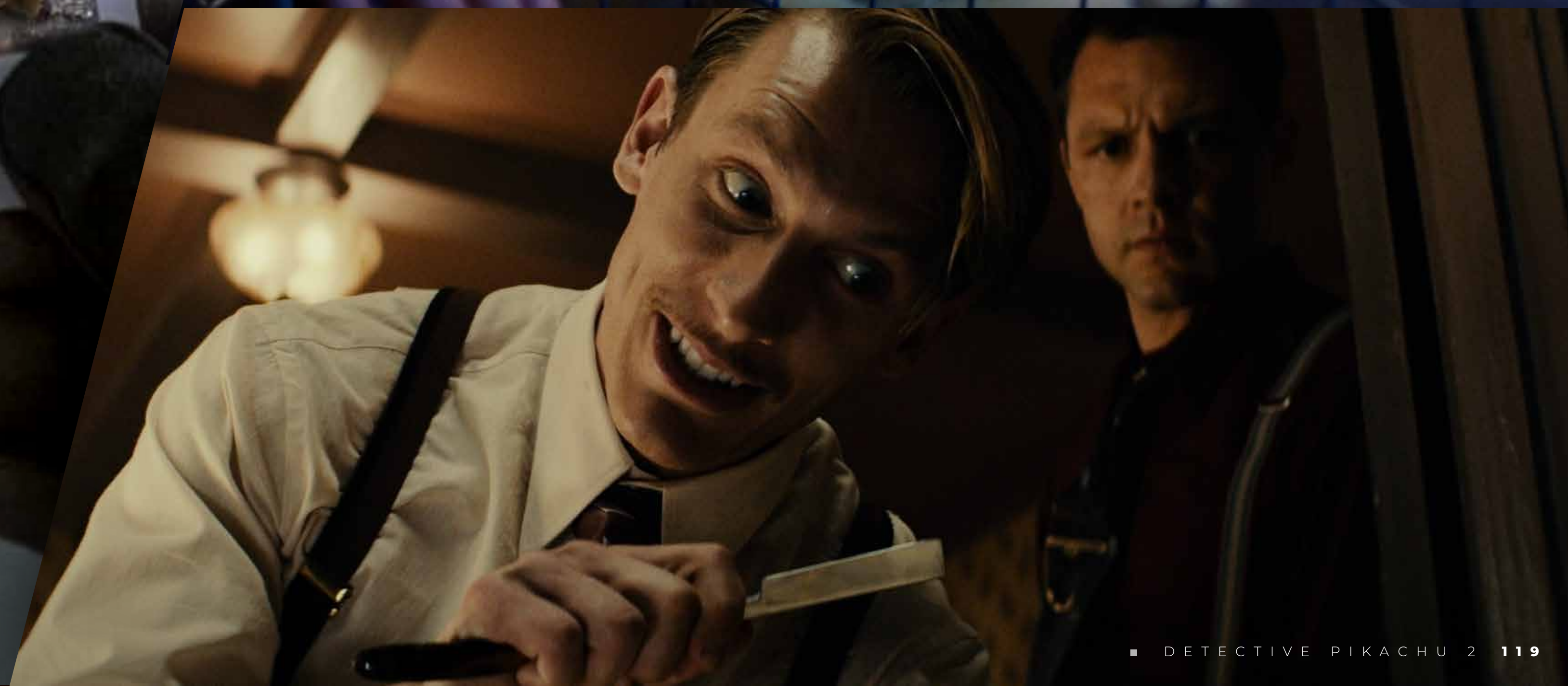
ピカチュウは仕方なく、おかしいポケモンの落書きの跡を追う…

謎めいた暗号に導かれ、ピカチュウは屋敷の奥深くへ向かう
そこにあったのは銀行強盗が盗み出した貸し金庫

原注：必ずしも貸し金庫から発見される必要はない



貸し金庫の中身に
ピカチュウは戦慄し、自問自答する
俺は一体誰なんだ…



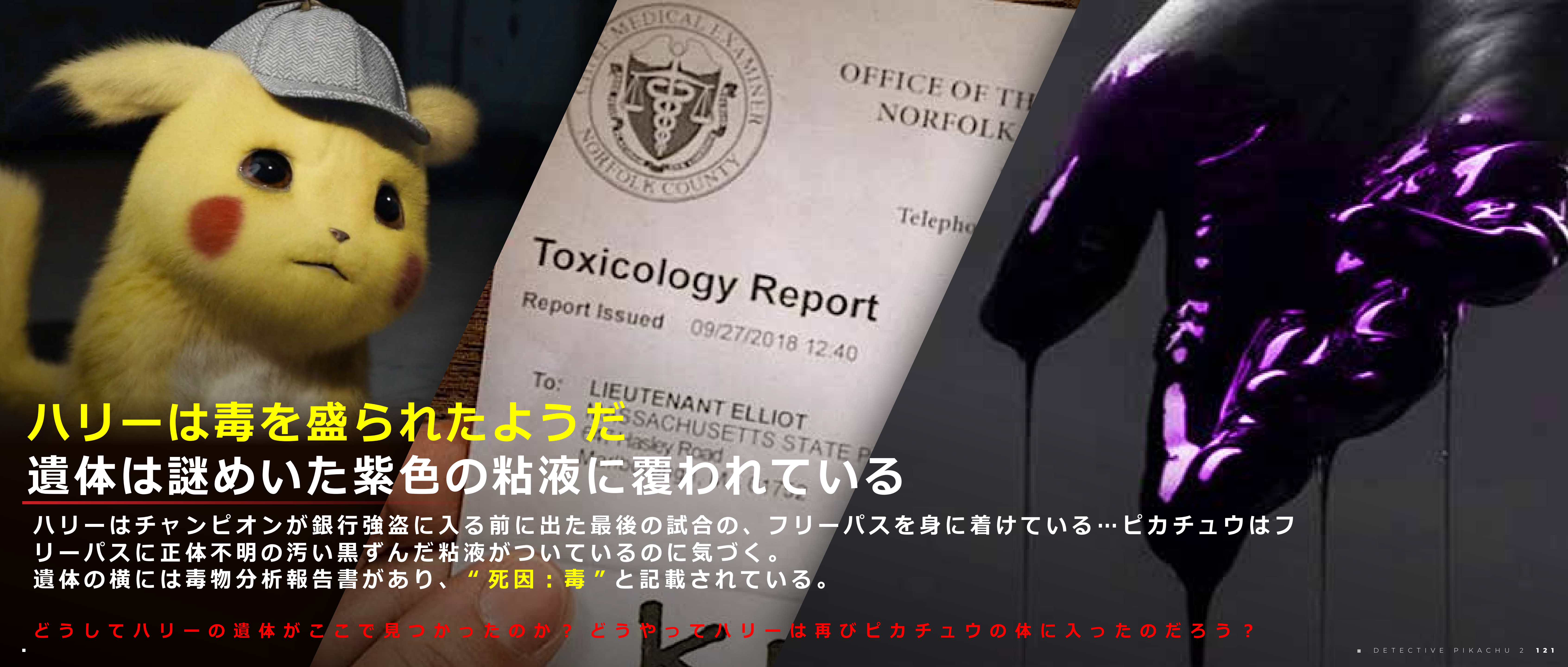
ピカチュウが発見したのは
ハリー・グッドマンの死体だ

ノワール風のナレーションは告げる、
“この時俺はようやく気づいた、俺が捜査していたのは
自分自身の殺人事件だってな”

ピカチュウは銀行強盗以前の記憶が全くないことに気づく。

・ どうやらこれで全てが結びつきそうだ。





ハリーは毒を盛られたようだ 遺体は謎めいた紫色の粘液に覆われている

ハリーはチャンピオンが銀行強盗に入る前に出た最後の試合の、フリーパスを身に着けている…ピカチュウはフリーパスに正体不明の汚い黒ずんだ粘液がついているのに気づく。
遺体の横には毒物分析報告書があり、“死因：毒”と記載されている。

どうしてハリーの遺体がここで見つかったのか？ どうやってハリーは再びピカチュウの体に入ったのだろうか？



ハリーを殺した何者かは
今もピカチュウを狙っているはずだ





名探偵ピカチュウは必死に 頭を回転させる

そこへ賊がドアを破って侵入する。“好奇心はニヤースを殺すって言葉を知らないのか？”
ドーブルが落書きで賊の気をそらす…

名探偵ピカチュウは逃げ延びて孤児たちのポケモンを見つけねばならない

ACT 3

第三幕



ピカチュウは自分とハリー・グッドマンが既にこの事件を解明したのだと気づく
自分たちが何かを発見したから、ハリーは殺されたのだ

謎を解くためには自分の足跡を追わねばならない
そしてそのためには… **自分の精神世界に入らねばならない**



ゾロアークとムウマージは
ピカチュウの記憶にアクセスし
精神の旅に連れ出す
目指すは忘却の彼方

映画のこのセクションでは、『インセプション』『X-MEN: フューチャー&パスト』のように、ピカチュウの精神世界のストーリーと並行して、現実世界では彼に危険が迫る。

ポッチャマや御三家ポケモンはピカチュウを外敵から守ろうとし、ゾロアークとムウマージはピカチュウに真実を見せようとする。

原注：実体験を回想させるのはゾロアークとムウマージだが、追加のポケモンが必要になるかもしれない。その場合はTPCの皆様に相談の上、TPCの
・ 規則の範囲内でベストな方法を探りたい。



回想

ハリー・グッドマン最後の事件

事件はポケモンバトル大会の舞台裏で起きる。

チャンピオンが最後に出場した試合だ。

ハリーとチャンピオンが昔からの親友だということが分かる。

ボクシングの試合を背景に使ったノワール映画は数多いが、
このセクションではそれらの作品を参考にする。





ハリーはチャンピオンを親友だと思っていたが 彼には多くの秘密があった

試合後、チャンピオンの様子がおかしい。ハリーの見るところ、
彼は何かを恐れているようだ… または誰かを。ハリーは不思議に思う。
チャンピオンは誰にでも愛されるスーパースターなのに。

俺は泥沼にはまった、とチャンピオンは言う。
何者かが彼を脅迫し、“すごく悪いこと”をさせようとしている。
だが別の何者かは、彼がそれを実行したら殺すと脅しをかけてきている。



チャンピオンは何を隠しているのか？
彼を操ろうとする二組の正体は？

回想は危険な局面を迎える

チャンピオン、ハリー、ピカチュウは 待ち伏せに遭う

チャンピオンは逃げおおせるが、ハリーとピカチュウは取り残される。

トレンチコートの男と、謎めいた毒タイプのポケモンが優勢だ…

ハリーの犠牲

ハリー・グッドマンとピカチュウは、追っ手の男とそのポケモンから逃げられるのはどちらか片方という状況に追い込まれる。

ハリーは即断する。躊躇はない。
やるべきことははっきりしている—パートナーであるピカチュウを助けるのだ。

ハリーとピカチュウの絆はそれほどまでに強い。
ピカチュウの命を救うため—ハリーは自分の命を投げ出す。

ハリーの究極の自己犠牲のおかげで、ピカチュウは逃げおおせる。



ドーブルを雇った者の正体が判明する **ハリーだ！**

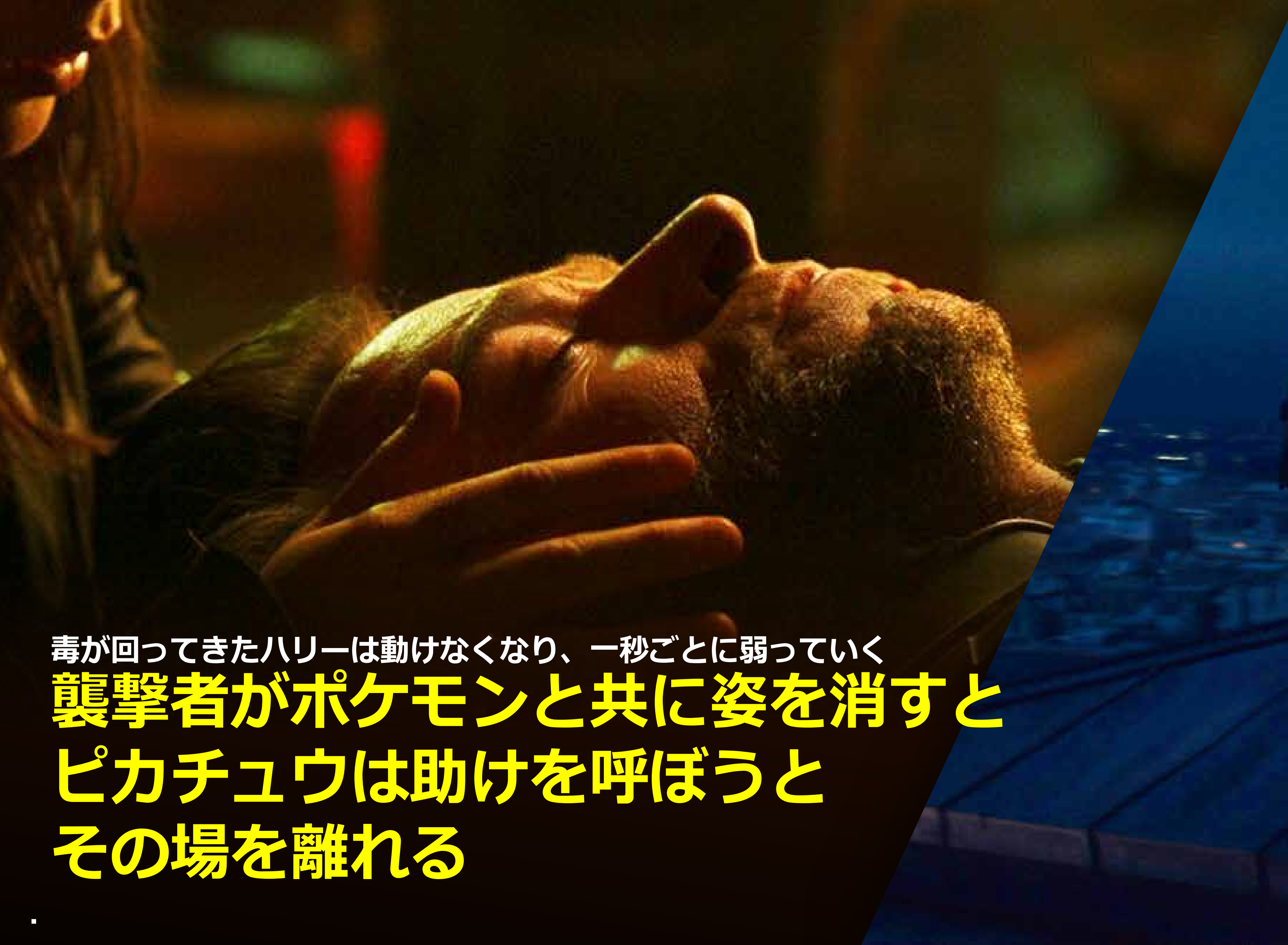
混乱のさなか、ハリーは死が目前に迫っていることを悟る。
自分が知った事実を誰かに伝えなくてはならない。
真実をここで埋もれさせてはならない…

そこで渋々ながら——ハリーはドーブルに頼る…

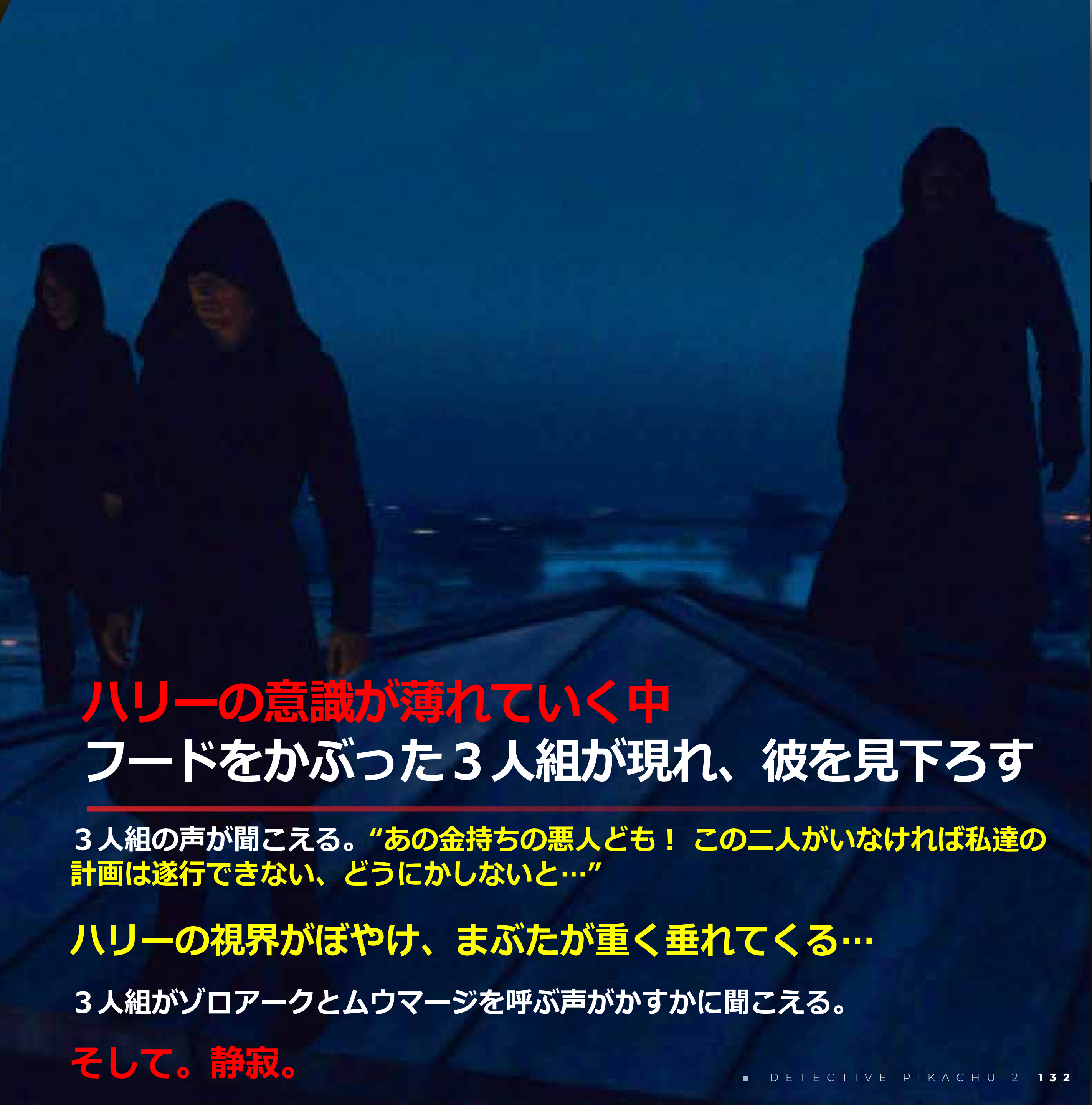
第一作でバリヤードが情報源になったように、ハリーが急遽情報を預けた
ポケモンがドーブルだったのだ。変わり者で当てにならないドーブルに
頼りたくはないが、自分が死にかけていることを考えると… 贅沢は言えない…



ハリーは意識を失う前に、自分が真実を思い出すのを手伝ってくれとドーブルに頼む。
ハリーもピカチュウも、これが上策でないことは分かっているが
背に腹は代えられない…



毒が回ってきたハリーは動けなくなり、一秒ごとに弱っていく
**襲撃者がポケモンと共に姿を消すと
ピカチュウは助けを呼ぼうと
その場を離れる**



**ハリーの意識が薄れていく中
フードをかぶった3人組が現れ、彼を見下ろす**

3人組の声が聞こえる。“あの金持ちの悪人ども！この二人がいなければ私達の計画は遂行できない、どうにかしないと…”

ハリーの視界がぼやけ、まぶたが重く垂れてくる…

3人組がゾロアークとムウマージを呼ぶ声がかすかに聞こえる。

そして。静寂。

ゾロアークとムウマージの協力でフードをかぶった3人組は ピカチュウとハリーの意識を 体から離脱させる

ハリーとピカチュウの絆の強さを利用し、フードをかぶった3人組はポケモンの力を使って、ハリーの生命力をピカチュウの体に移す。その過程でハリーはこれまでの記憶を失う。

原注：ハリーの意識がピカチュウに入った経緯について、合理的な説明はいろいろ考えられるが、ハリーの生命力（と記憶の消去）が一番すっきりしているようだ。ミュウツーを使った第一作のやり方を避けたとしても、面白い方法はたくさんあるが、それにはゾロアークとムウマージ以外のポケモンの力が必要になるかもしれない。



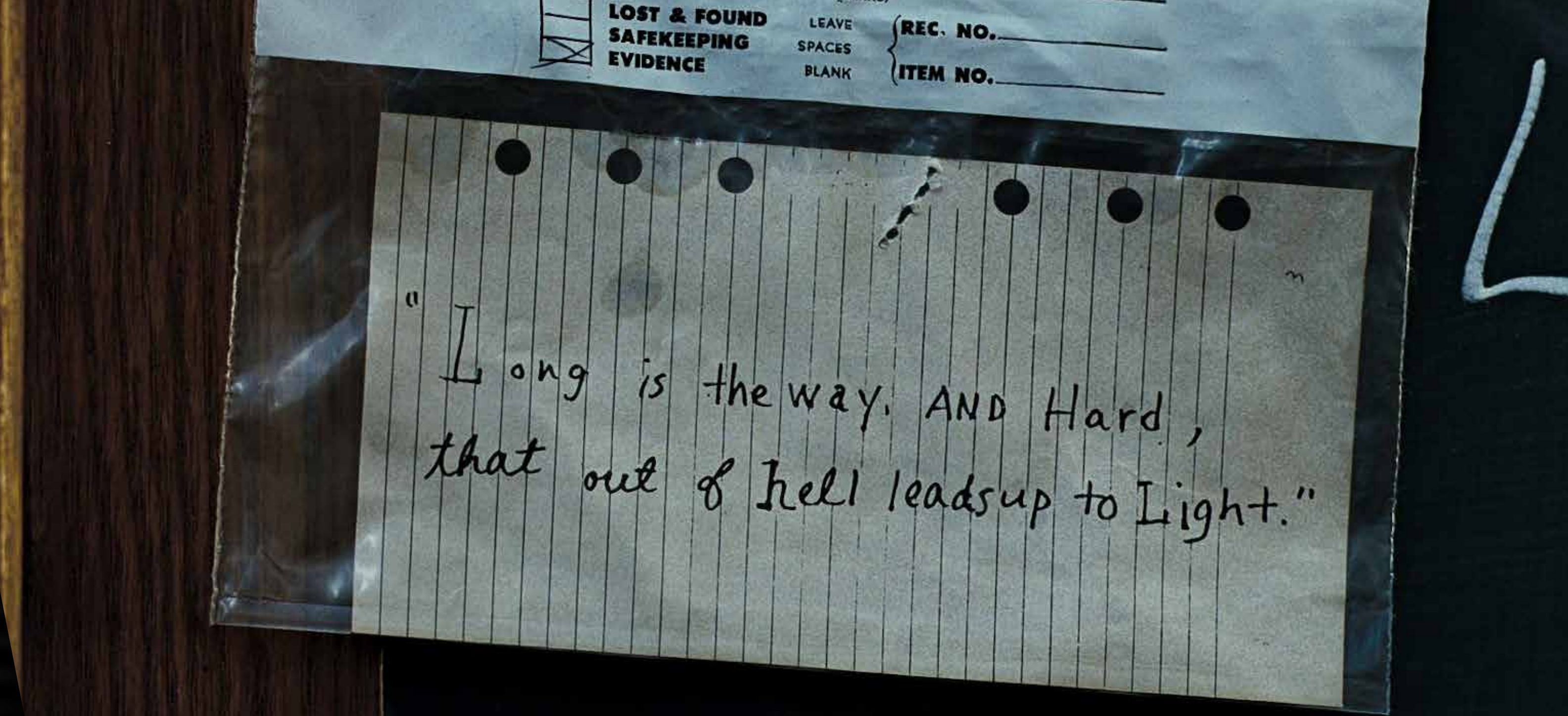
一周回ってコールドオープンへ

回想は終わり、ここから先はすべてリアルタイムで進行する。

ピカチュウは自分の奇妙な体験をノワール風のナレーションで語る。“**というわけで、俺は今ここにいる…**”

彼がこのメッセージを記録するのは、不正を暴く証拠にするだけでなく、自分が生き延びられなかった場合に備えて息子ティム・グッドマンに伝言を残したいからだと分かる。

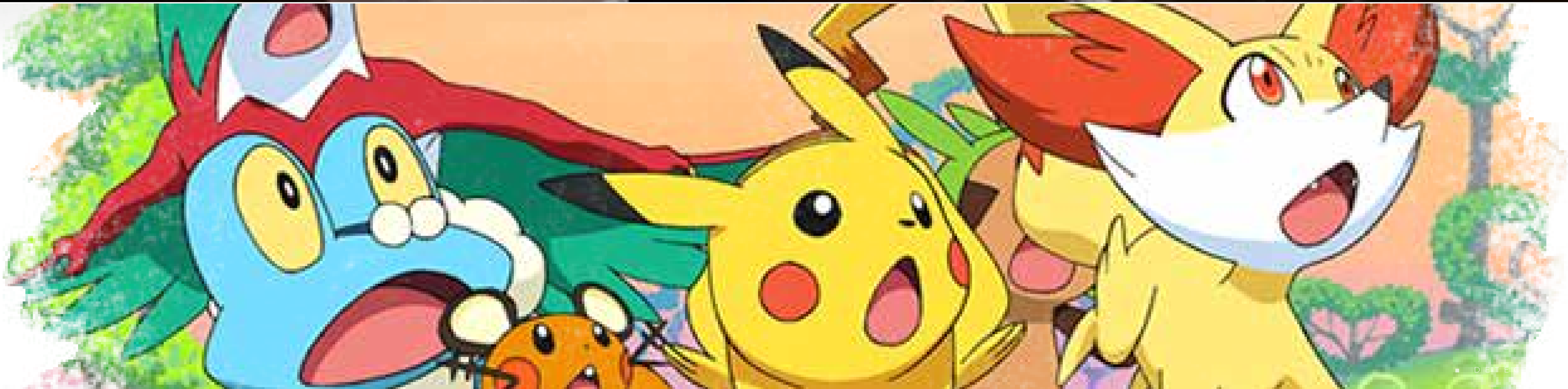
ピカチュウのナレーションの撮影を手伝っていた者たちの正体が判明する。
ポッチャマ、そして孤児たちの御三家ポケモンだ。



時間は刻々と過ぎていく

ピカチュウと御三家ポケモンは 一族の不正を暴けるのか

要交け大
いの賭は
し士のに
ら同つ查
いモン一
わモ一の
かケで、
もポ素た
最の要偵
で時た探
ズいて人
イない素
チャいけ
が欠いず
人間はわ
ラン人で
フ、作、
・が、性
ンつ第る
モ一。あ
ケのだも
ポ素流で





PLAN IS INTERRUPTED

計画に邪魔が入る

ワールドオープンの賊が ピカチュウを捕らえる

ピカチュウの運は尽きたが...

御三家ポケモンは何とか逃げ出す...

縛り上げられたピカチュウの前に パトリアークが現れる

ピカチュウが言う。“全部お見通しだぞ！
孤児のことも、博士のことも、チャンピ
オンのことも…そしてこの俺、ハリー・
グッドマンのこともな！”

残念だよ、とパトリアークは答える。
孤児たちが逮捕された時点で手を引いて
くれば、君を殺さずに済んだのに。

君が私を追い詰めたのだ…

捕らえられたピカチュウは
**パトリアークに
謎のガスを吸わされ…**

**名探偵ピチューに
退化する**

**御三家ポケモンが救出に駆けつけ
大混乱を起こしてピカチュウを逃がす**

ここから（ほぼ）最後まで、名探偵ピカチュウに代わって… 名探偵ピチューが活躍する。
ピチューはかわいさではピカチュウを上回るが、能力面でははるかに劣る。ピチューが新しい体に慣れようとするこのセクションのコメディの可能性は計り知れない。不思議なことだが、ハリー／ピカチュウはこれも悪くないという気分になる。前より気楽な気持ちだし、テンションが高くなる。まるで精神の一部まで退行したような感じだ。イメージとしては『カールじいさんの空飛ぶ家』の、リスを見るたびに叫ばずにはいられない犬に近い。ピチューのDNAに組み込まれた斬新でチャーミングな行動様式だ。

ピチューと御三家ポケモン コンテストの舞台裏に忍び込む

包囲網が迫る中、ピチューは最後の抵抗を試みる。
彼の敵はこれまでの探偵人生で最大の巨悪だ。
ダビデとゴリアテの戦いのようなものだ。

ピチューと御三家ポケモンは密かにあちこちの電気配線をいじり、
接続を切ったりつなぎ合わせたりする。
これが後に意味を持ってくる…



コンテスト最終日

ピチューは証拠を突きつけ パトリアークを糾弾する



ピチューがすべてを説明し もつれた謎を解きほぐす

探偵としての能力を華麗に披露し、
一連の事件の流れを解説する。



- ・孤児たちは一族の不正（チャンピオンも関わっていた）を知り、チャンピオンに悪魔の取引を持ちかけた。銀行強盗に協力しなければ、お前の不正を暴露し名声を汚す、と。
- ・一族は自分たちを危険にさらしたら殺す、と血を分けた家族であるはずのチャンピオンを脅した。だが結局はハリーを殺すことになった（事故という側面もあるが、どちらにせよハリーは知りすぎていた）。
- ・チャンピオンは銀行強盗に協力して一族の金を盗むが、孤児たちに裏切られ、モンスターボールを奪われ、置き去りにされた。
- ・孤児たちが狙ったのは連鎖反応だ、とピチューは説明する。御三家ポケモンの一匹目を奪還すると同時にチャンピオンの名声を汚し、さらには銀行強盗事件をきっかけに名探偵ピカチュウが一族に目をつけ、その伝説的な探偵能力で、根深い不正を暴いてくれることを期待したのだ。



パトリアークは真っ向から否定する

温かな態度を一変させ、冷たく護衛部隊に命じる。
“ピチューを楽にしてやれ”

護衛部隊はピチューを取り囲む。謎めいたガス入りの容器をピチューに向ける。

護衛部隊の隊長が言う “未進化のポケモンを退化させたらどうなるか
知ってるか？ タマゴに戻るんだ。そのタマゴを俺達がどうすると思う？”

隊長がハンマーを取り出し…
ピチューが震え上がる。

その時、突然ハリー・グッドマンが部屋に入ってくる
パトリアークは幽霊でも見たような反応を示す…



パトリークは叫ぶ “お前は死んだはずだ！”

そして逆上のあまり、一族の存続のために自分が行った悪事をすべて並べ立てる。

突然室内が白黒に点滅し、ハリーの姿が消えていく。ハリーはパトリークの告白を引き出すためにゾロアークが見せた幻影だったのだ。

ピチューのナレーションの撮影を手伝っていた御三家ポケモンが、撮影機材と共に登場する。

パトリークは豪華な自室の窓から外を見て、今的一幕が放送されスタジアムの観客全員に見られていたことを知る。

パトリークの表情がすべてを語る。終わりだ…
彼は自暴自棄になりピチューを襲わせようとするが、ポケモンたちが護衛部隊を制止する。

原注：必ずしもハリーを使う必要はないが、パトリークを逆上させるにはそれが一番スマートなやり方ではないか。
ゾロアークとムウマージを使えば、この一幕はいかようにもアレンジ可能だ。

パトリアークは逮捕される。

罪状は共謀、不正、八百長、独占、ポケモンの健全性の冒涇…

そしてハリー・グッドマンの殺人だ。



パトリアークはハリーを殺してはいないと
言いかけたところで、ライムシティ警察に
護衛部隊ごと連行される。





パトリークが排除されると、コンテストは公平に審査され
**優勝は最年少出場者
最弱候補のアイドルに**

このサブプロットがクライマックスを迎える頃までに、曲者ぞろいの出場者を魅力的に描いて観客を彼らに惚れ込ませ、大きな謎とは別の独立した関心事として、優勝の行方に注目させたい。

エアレスは公衆の面前で我を失い、フォクスライを優勝者にけしかけるが、ピチューと仲間のポケモンがこの甘やかされた悪ガキの子供じみた振る舞いを制止する。エアレスは即座に逮捕される。

“偉大なイコライザー”としてのポケモンの健全性は回復された。



帰ろうとするピチューに プロ・ブロが再戦を挑む

プロ・ブロが言う “三回勝負のはずだぞ”

ピチューは答える “そんなことより自分の一族を心配したらどうだ”

プロ・ブロは興味がないとうそぶく “これで俺の相続分が増えるだけだ”

ピチューは聞く “ゲッコウガ無しで、どう戦うつもりだ?”

プロ・ブロが答える “とっておきの隠し玉がある”

そしてモンスターボールを投げ、紫の粘液に覆われたベトベトンを放つ。



ラウンド3

ピチュー VS. ベトベトン



ピチューはプロ・ブロを倒す
ピチューは誇らしげだ

コートをべっとり覆ったベトベトンの粘液から、ピチューはサンプルを採取する。

勝利後、ピチューは告げる。
“ああ、最後にもう一つ…
お前を逮捕する”

警察がなだれこみ、 卑劣なプロ-ブロを逮捕する

イッシュ地方のポケモン図鑑によれば、ベトベトンは“体から毒液を出す”。カントー地方のポケモン図鑑にはこうある
“毒性は非常に強く、足跡にさえ毒があるほどだ”



プロ-ブロは叫ぶ“一体何の話だ？手をどける。
俺を誰だと思ってる？弁護士を呼べ”

ピチューは答える“説明が遅れて申し訳ない…
お前をハリー・グッドマンおよび博士殺害の罪で逮捕する”

ピチューは続ける。“世界にポケモン多しといえど、毒を出して紫色の粘液を
残すのはたった一匹、ベトベトンだけだ。お前の一族はあらゆる悪徳の見本市
だが、お前ももう一度俺に勝ってエゴを満たしたいという欲望に負けたせいで
一生ムショ暮らしになる証拠を渡してしまったわけだ”

ゲームセット。終了だ。





ピチューのおかげで
一族のメンバーは
全員罪を暴かれた

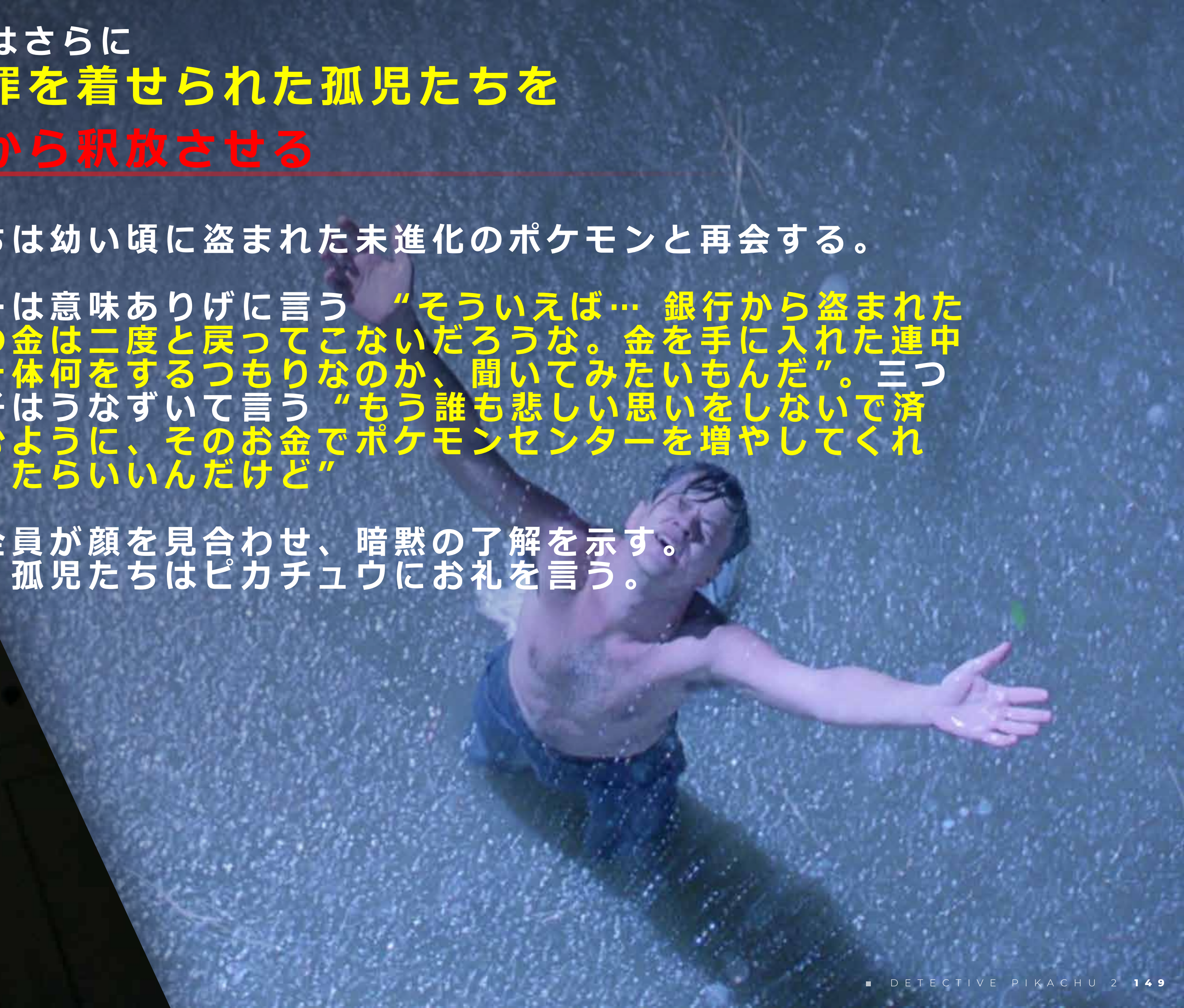


ピチューはさらに
無実の罪を着せられた孤児たちを
刑務所から釈放させる

孤児たちは幼い頃に盗まれた未進化のポケモンと再会する。

ピチューは意味ありげに言う “そういえば… 銀行から盗まれた一族の金は二度と戻ってこないだろうな。金を手に入れた連中が一体何をするつもりなのか、聞いてみたいもんだ”。三つ子はうなずいて言う “もう誰も悲しい思いをしないで済むように、そのお金でポケモンセンターを増やしてくれたらいいんだけど”

全員が顔を見合わせ、暗黙の了解を示す。
孤児たちはピカチュウにお礼を言う。



こうして真実は明らかになり
ピチューは感情の旅を
終える



ピチューは進化し
名探偵ピカチュウに戻る

謎が解明され

WITH THE MYSTERY SOLVED,
HARRY GOODMAN IS PRESENTED WITH A CHOICE
PIKACHU'S BODY

選択を迫られたハリー・グッドマンは
ピカチュウの体に留まることを選ぶ

この感動的な選択を合理的に説明する根拠はいろいろ考えられるが、一番面白くて分かりやすいのは、単純にハリーはポケモンである時のほうが探偵能力が高いから、というものだ。うまく組み込むには何らかのやり方が必要だが、キャラクターベースのアクセントとして映画全体を引き立ててくれるだろう。

原注：方法としては、これまで構築してきた幻影の能力を使ってもいいしハリーが毒物による昏睡状態から一時的に目覚めることにしてもいい。やり方はいろいろあるが、いちばん大事なのは感情のコアを捉えることだ。



名探偵ピカチュウの 今後のパートナーは ファム・ファタール



全編を通じて、彼らの相性は（ポッチャマも含めて）ポップで勢いがあった。
これでフランチャイズの原動力をリセットし、前進させられる。

THANK YOU

ここまでお読み頂いた全文の意図、または大きな目標のラフ案が、皆様に明確に伝わっていることを祈ります。

皆様が今作のビジョンを共有し、そこに含まれる可能性にワクワクして下さることを願ってやみません。

いつも通り、ここが議論の出発点です。ここからはストーリーやキャラクターが改良の一途をたどることでしょう。

最高に説得力のある（そして面白い）ミステリーを作るため、皆様がどの要素に興味を持たれたかをお聞きする機会を楽しみにしております。

Jordan Vogt-Roberts

代案、オプション、要検討事項

以下は改善の余地がある動機や、筆者が検討した別の選択肢など、細かな未決事項です。

孤児たちの正体発覚を遅らせる

ピカチュウが孤児たちの正体に気づくタイミングを遅らせ、行方不明のポケモン絡みの“ミステリー”の捜査を第二幕の終盤に延期するというパターンもあります。この場合、ピカチュウは家族や出場者のうち盗まれた御三家ポケモンを持っている人物は誰かという調査に多くの時間を割くことになります。一族の不正の暴露はもっと遅れることになるかもしれません。

家族の別れと再会

ファム・ファタールが一族の養女になっていたことが明らかになるというパターンもあります。この場合、孤児たちの復讐という動機に悲劇というひねりが加わることになります。回想シーンで御三家ポケモンと町が失われたあと、ピカチュウは末っ子が森の奥へ駆け出したまま行方不明になる場面を目撃します。ゾロアークとムウマージが末っ子が死んだという偽物の幻影を見せ、残った孤児たちの復讐心をさらに煽り立てることにしてもいいでしょう。この場合、発覚する真相の数が増えることになります。マスクをかぶった孤児二人が、はるか昔に行方不明になった姉妹（ファム・ファタール）が生きており、ピカチュウと組んで自分たちの計画を阻止しようとしていることに気付いてショックを受けることにしてもいいでしょう。また彼女は森の奥で行方不明になったことになっているが、実は例の裕福な一族の養女になり、着々と復讐計画を練っていたというパターンも考えられます。

パートナー

今のところ、ピカチュウの新たなパートナーは孤児の一人であり、ハリマロンの正当なパートナーである事になっています。つまり孤児／パートナーはハリーの死後、ピカチュウを見張るスパイになるため、また一族に接近するために、ピカチュウと組んだということです。少々無理のある理屈ですが、孤児たちをハリーが死ぬ回想シーンに登場させ、ゾロアークとムウマージの能力を使ってハリーの意識をピカチュウに移したのは、一族の不正を暴くためにはピカチュウが必要だったからだということにしてもいいでしょう。

パートナーが一族の護衛部隊の一人だったというパターンも考えられます。ピカチュウがパトリアークと対峙し、孤児たちの証言を突きつけた時に初めて、パートナーがピカチュウの敵だったことを明かします。

チャンピオン

冒頭の銀行強盗については、盗まれた貸し金庫に一族を最後に追い詰める証拠が入っていたというパターンも考えられます。またはチャンピオンが強盗の最中に命を落とし、尋問できなくなるというパターンもあるでしょう。チャンピオンが映画冒頭で逮捕される場合、孤児たちの逮捕後に彼を復帰させ、ピカチュウが彼に話を聞きに行けるようにして、そこからハリーの回想につなげる手もあります。さらには、チャンピオンは実際には強盗に加担していなかったのだが、ゾロアークが幻影の能力で防犯カメラを操作し、彼が現場にいたかのように見せかけて無実の罪を着せた、というパターンもあり得るでしょう。チャンピオンの役割は他のピースの収まり具合によって決まる調整弁としておくのが良さそうです。